



千葉大学
CHIBA UNIVERSITY



京葉銀行
BANK

ecoプロジェクト

7色の虹を千葉から未来へ

2018 年度 プロジェクト実施報告書



千葉大学環境 ISO 学生委員会

目次

0、はじめに	2
(1) プロジェクトの概要	
(2) 2017 年度から進化した内容	
1、京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	4
(1) 主な国内外への学生派遣	
① International Green Gown Awards 授賞式 報告	
② 2018 EAUC 年次大会 報告	
③ 第 12 回環境マネジメント全国学生大会 報告	
④ CAS-Net JAPAN 2018 年次大会 報告	
⑤ ACCS 2018 年次大会 報告	
(2) 学生の環境活動支援	
「Chiba Winter Fes 2019 ~千葉からエコを広げよう~」	
2、学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング	16
(1) エコアクション 21 の紹介	
(2) 本企画の概要	
(3) 実施体制	
(4) 進捗状況	
3、学生発案の 7 つの環境貢献企画	18
(1) 7 つの企画決定までの経緯	
(2) 各企画の進捗状況	
① 千葉大生とともに考える 環境ゼミナール／ソーラーシェアリング(営農型発電)見学会	
② こどもエコまつり	
③ 千産千消フェア ~ちばを食べてエコしよう~/千葉大学のギンナンを食べよう!	
④ Chiba クリーンアクション	
⑤ 都市鉱山発掘プロジェクト	
⑥ エコ発信局	
⑦ 京葉銀行エコチャレンジ	
4、プロジェクトの広報内容と結果について	38
(1) プレスリリース	
(2) 毎日新聞のネットニュース記事としての配信	
(3) 新聞記事	
(4) テレビ露出	
(5) 文部科学省における企画展示・セミナー開催	
(6) イベントにおける広報	
(7) 表彰	
5、まとめと来年度の展望	48
参考資料)「1、京葉銀行による学生委員会の活動支援（1）国内外への学生派遣」における派遣学生の報告書	

0. はじめに

(1) プロジェクトの概要

● 発足経緯

国立大学法人千葉大学と株式会社京葉銀行は、2012年に包括的連携協力に関する協定を締結し、地域に様々な付加価値の提供と、地域社会、経済、産業の発展と活性化に積極的に取り組んできた。

千葉大学は2005年に国際規格のISO14001を取得し、学生主体の環境マネジメントシステムを実施してきた。「千葉大学環境ISO学生委員会」は発足から今年度で15年目を迎え、千葉大学の環境マネジメントシステムの運用を担うとともに、大学内と地域の環境意識の向上を促進するため、様々な環境活動を行ってきた。

京葉銀行では地元企業として地域のよりよい未来のために、これまで地域貢献や社会福祉活動、文化・スポーツ振興等に取り組んできた。環境面においてもお客様の環境意識の高まりを受け、定期預金の満期案内を環境保全に変える「エコプロジェクト」や「ちば環境再生基金」への寄付活動、環境配慮型商品のご案内等のお客さま参加型の環境活動を実施しており、今後更なる環境への取り組みを模索している。

このような背景から、昨年度、京葉銀行と千葉大学環境ISO学生委員会が協同し、「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という想いから本プロジェクトが発足した。本年度は昨年度までの企画に加えて、さらに新企画を考案することでプロジェクトのパワーアップを図った。

● 名称

7色の虹を千葉から未来へ～千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト～

● 目的

環境活動促進 + 地方創生 + 学生の社会勉強 → 地域活性・環境への貢献

- ① 県民の皆さまや京葉銀行の役職員、お取引先企業、千葉大生に対する環境意識の啓発活動
- ② ①の活動による地域社会の活性化と環境負荷削減への貢献
- ③ 京葉銀行の役職員や多様な主体と協同することによる学生の社会勉強の機会

● 名称とロゴに込めた想い

千葉大学と京葉銀行が連携して、様々な環境活動を行うことで、千葉県から未来の地球に貢献するという想いがこもっている。その活動の主体として、ロゴの中心には千葉大学環境ISO学生委員会のキャラクターである「いそちゃん」がデザインされている。デザインは学生委員会の学生が行った。



● 内容

プロジェクトの内容は大きく3つある。

1) 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

国内外の環境系のシンポジウムや大会等で、千葉大学の学生による先進的な環境への取り組みを発信していく。これにより、サステイナブルキャンパスの推進に貢献するとともに、学生にとってはプレゼンテーション経験や他大学との交流ができる機会となる。京葉銀行は学生派遣の旅費等の資金を提供するほか、企業が持つ知見やノウハウを活かしアドバイスするなど学生を支援する。

2) 学生による「エコアクション21」取得コンサルティング

企業が環境に配慮した事業活動を促進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献することから、千葉県内の企業のエコアクション21（以下EA21）取得を促進する。京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生がEA21のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。学生にとってはコンサルを通じた環境教育と企業とのかかわりによる社会経験となる。学生のコンサルティング活動は「環境マネジメントシステム実習III」として単位化される。

※エコアクション21=環境マネジメントシステムの認証

3) 学生発案の7つの環境貢献企画

地域の方々や京葉銀行の関係者の方々に対して、環境意識の啓発につながるイベント等の活動を行う。京葉銀行は主に個々の企画の開催段取りを行い、学生はコンテンツを作成・当日運営を担当する。学生にとっては環境教育や実務教育の機会となる。

(2) 2017年度から進化した内容

1) 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

新たに寄付してくださる方が2者増え、寄付額も1.5倍（200万→300万）に増えた。

2) 学生による「エコアクション21」取得コンサルティング

昨年度準備で終わってしまったコンサルティングについて、今年度は実際に株式会社弘報社印刷様に対して、学生のコンサルティングを開始した。

3) 学生発案の7つの環境貢献企画

昨年に引き続き7つの企画を掲げ、昨年度進行しなかった「④Chibaクリーンアクション」と、昨年度準備で終わってしまった「⑤都市鉱山発掘プロジェクト」を確実に実施した。

また、以下の3企画についてもバージョンアップを行った。

- ①千葉大生とともに考える環境ゼミナール
- ③千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～
- ⑥エコ発信局

1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

● 概要

京葉銀行の寄付により、学生委員会の環境活動を支援する。主に、旅費等を支援し、学生委員会のメンバーが国内外の環境系の会議や交流会等に参加する。

● 目的

国内外の環境系の会議や大会等で、千葉大学の学生主体の先進的な環境への取り組みを発信していくことによって、サステイナブルキャンパスの推進に貢献する。また、プレゼンテーション経験や他大学との交流は学生にとって貴重な機会となるほか、他団体等との交流を経て活動のさらなるレベルアップに資する経験・知識を得る。

● 寄付金額

eco プロジェクト全体として 300 万円 (2017 年度 : 200 万円)

寄付金 (内訳)

株式会社京葉銀行様	230 万円
鎌ヶ谷巧業株式会社様	50 万円
前原東二様	20 万円

(1) 主な国内外への学生派遣

日程	会議・大会名	開催場所 (派遣先)	派遣 学生数	旅費・参加 等の費用
2018 年 5 月 14 日 ～18 日	International Green Gown Awards 授賞式	フランス・ マルセイユ	2 名 +教員 1 名	約 68 万円
6 月 19 日 ～21 日	2018 Environmental Association for Universities and Colleges (EAUC) 年次大会	イギリス・ キール大学	2 名 +教員 1 名	約 65 万円
9 月 13 日 ～14 日	第 12 回 全国環境マネジメント学生大会	信州大学	6 名	約 15 万円
11 月 17 日	サステイナブルキャンパス推進協議会 (CAS-Net JAPAN) 2018 年次大会	岩手大学	3 名	約 13 万円
12 月 9 日 ～10 日	The 4 rd Asian Conference Sustainability (ACCS)	韓国・ 延世大学	3 名	約 26 万円

以下、各会議の報告概要である。派遣学生による報告書は本報告書の末尾に添付してある。

① International Green Gown Awards 授賞式 報告

●International Green Gown Awards の受賞

「Green Gown Awards」は、世界における大学の優れた持続可能性の取り組みを評価・表彰する制度であり、国際連合環境計画（UNEP）と大学環境協会（EAUC）が主催する賞である。世界の4つのエリアで開催されており、千葉大学は「アフリカ、アジア太平洋、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、カリブ海、北米、西アジア」を含むGUPESエリアでの受賞大学として、「International Green Gown Awards 2017-2018」に選出され、世界で最も深く学生が環境への取り組みに関与する大学として「Student Engagement」部門を受賞した。日本の大学の受賞ははじめてのことである。



●本授賞式の概要

日 程：2018年5月16日（水） 20:00～21:00（フランス・マルセイユ現地時間）

場 所：KEDGE Business School

プログラム：本授賞式は、KEDGE Business Schoolで開催された「Global Responsibility Now！」という一連の環境会議の一環として行われた。

●千葉大学環境ISO学生会の参加したプログラム

5月15日（火）

- The Sulitest Governance, National Committees Sulitest（持続可能性に関する知識を普及させるためのテスト）の開発者・企業・指導者などが集まる合同会議に出席した。

5月16日（水）

The Cross-Road day “Towards mutuality of impact”

- Connected to a common cause
環境に関する様々なプレゼンテーションを拝聴した。
- Connected to the self & nature
「Running」「Walking」「Meditation」などのアクティビティーに参加した。
- Connected to others & actions
お題ごとにグループに分かれたワークショップに参加した。
- 「International Green Gown Awards 2017-2018」授賞式（写真上）
授賞式に参加し、「Student Engagement」部門を受賞した。



●参加した学生

上田幸秋（法政経学部・3年）、岡桃菜（国際教養学部・3年）

② 2018 EAUC 年次大会 報告

●EAUC とは

EAUC (Environmental Association for Universities and Colleges : 大学環境協会) は、世界の大学の環境の取り組みを促進するために 1996 年に設立された非営利団体（本部：イギリスグロスター・シャー大学）であり、国際グリーンガウン賞の運営などを行っている。日本のサステイナブルキャンパス推進協議会とも密接に連携している。

●年次大会の概要

日時：2018 年 6 月 19 日～21 日（参加したのは 20 日）

場所：イギリス・キール大学

内容：千葉大学生が千葉大学の取り組みを発表するとともに、パネルディスカッションに参加しました。年次大会には約 400 名が参加し、企業・大学・NPO のブースが 20 以上出展される大規模な大会でした。



●スケジュール（6 月 20 日）

9:30- ウエルカムカンファレンス

9:50- 講演会

10:30- 展示会開始&ハブセッション

11:15- ワークショップ

12:15- 講演会

13:00- ランチ&ハブセッション

14:30- パネルディスカッション

※委員会活動の紹介として参加

16:00- ワークショップ

17:00- フリータイム

19:30- ディナー

EAUC の CEO の Iain Patton さんと学生
(左：八代慈瑛、右：浅倉裕登)



委員会オリジナルうちわを配布

③第12回環境マネジメント全国学生大会 報告

●環境マネジメント全国学生大会とは

全国の環境系の活動に携わる学生、興味のある学生が集まり、他大学との連携を深め、他大学の良い点を吸収していくことで、自団体の活動の発展を目指していく。

この大会は毎年主催大学を交代しながら開催し、今年で12年目を迎える。今年度は信州大学環境ISO学生委員会の主催の元、信州大学上田キャンパスにて開催された。

●参加団体：計8大学、10団体

岩手大学環境マネジメント学生委員会、大阪大学環境サークルGECS、鳥取環境大学学生委員会、千葉大学環境ISO学生委員会、中部大学ESDエコマネーチーム、三重大学環境ISO学生委員会、琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会、信州大学環境ISO学生委員会（工学部、繊維学部、松本キャンパスの3団体）

●大会概要

日 程：2018年9月6日(木)～7日(金)

会 場：信州大学 繊維学部上田キャンパス

参加者：77名

テーマ：私たちから変える未来～今できること、していることは2030年にどのように影響するのか～

内容：各団体の活動報告、基調講演、分科会、キャンパスツアーコンテンツ

●プログラム

1日目：9月6日(木)

12:30～12:55 受付

13:00～13:15 開会式

13:15～14:00 アイスブレイク

14:00～17:40 活動報告（説明）

14:25～15:25 活動報告（岩手大、千葉大、中部大、三重大）

15:35～16:35 活動報告（大阪大、鳥取大、琉球大）

16:50～17:40 活動報告（信州大）

2日目：9月7日(金)

08:30～09:00 受付

09:15～10:15 基調講演 中島恵理氏（長野県副知事）

10:15～10:30 基調講演 藤川まゆみ氏

（NPO法人上田市民エネルギー理事長）

10:30～12:10 キャンパスツアーコンテンツ

13:00～14:15 分科会（グループワーク）

14:35～16:00 分科会（発表）



PowerPoint資料の一部

16:20~17:00 閉会式

18:30~20:00 懇親会

●学生委員会からの参加者 計：10名

3年生：上田幸秋（法政経学部）

2年生：丸山達也（工学部）、渡邊道哉（理学部）

1年生：河村夏海（教育学部）、稻村友里（園芸学部）、水谷匠吾（園芸学部）

●学生の参加状況

<事前>

当委員会の活動報告のため、パワーポイント資料及び名刺を保有していないメンバーのため名刺の作成を行った。また昨年度実施できなかった勉強会とマナー講習も行った。

<当日>

初日は委員会の活動報告のため学生委員会のメンバーが登壇し、プレゼンを行った。この中で、京葉銀行との協同 eco プロジェクトや京葉銀行が協賛した Chiba Winter Fes 2018についても発表した。

2日目はキャンパスツアーに参加し、基調講演を拝聴した後、各団体のメンバーが混ぜられたグループに分かれて分科会（ワークショップ）を行った。ワークショップ後はその成果をグループごとに登壇し、発表を行った。



活動報告の様子



分科会の様子



キャンパスツアーの様子



信州大学での集合写真

④ CAS-Net JAPAN 2018 年次大会 報告

● CAS-Net JAPAN とは

CAS-Net JAPAN(Campus Sustainability Network in Japan)とは、サステイナブルキャンパス推進協議会のことである。この協議会の目的としては大学キャンパスにおいてハード面・ソフト面の双方からサステイナブルを促進する取り組みを加速させ、持続可能な環境配慮型社会構築に貢献することで、そうしたサステイナブルキャンパス促進に関する取り組みや成果を各大学が発表するのが年次大会である。昨年度は千葉大学が「学生活動・地域連携部門」で受賞するとともに、受賞事例の報告の中で選ばれる「特別賞」も受賞した。

● 年次大会の概要

日程：2018年11月17日(金) 10時～17時半

場所：岩手大学上田キャンパス

プログラム：第一部 全体シンポジウム（趣旨説明、講演、キャンパスツアーア）

第二部 事例発表（学生活動・地域連携部門、大学運営部門、建設・設備部門）

第三部 まとめ・表彰式（第二部事例発表のセッション報告、表彰と表彰事例の報告）

● 学生の参加状況

- ・第一部の全体シンポジウムを聴講した。
- ・第二部の事例発表ではセッション1の学生活動・地域連携部門で発表を行った。この中で、京葉銀行との協同 eco プロジェクトや京葉銀行協賛の Chiba Winter Fes 2018についても発表した。
- ・第三部の表彰式では受賞事例について他大学の取り組みについて聴講した。今大会の「特別賞」は SDGs を推進して立命館大学の Sustainable Week 実行委員会が受賞した。

● 参加学生

細萱桂太（法政経学部・2年）、青木瞳（教育学部・1年）、照井友梨香（教育学部・1年）



キャンパスツアーの様子



サステイナブルキャンパス賞授賞式の様子



事例発表の様子

本日の内容

- 1. 千葉大学方式の環境マネジメントシステム**
- 2. 環境ISO学生委員会の学内活動**
- 3. 環境ISO学生委員会の学外活動**
- 4. Chiba Winter Fes～千葉からエコを広げよう～**

**千葉大学×京葉銀行 ECOプロジェクト
～7色の虹を千葉から未来へ～**



- ①千葉大生とともに考える環境ゼミナール
- ②こどもエコまつり
- ③千葉千消フェア～ちばを食べてエコしよう～
- ④Chibaクリーンアクション
- ⑤都市盆山発掘プロジェクト
- ⑥エコ発信局
- ⑦京葉銀行エコチャレンジ

年度パワーアップした内容

- ①千葉大生とともに考える環境ゼミナール
- ②こどもエコまつり
- ③千葉千消フェア～ちばを食べてエコしよう～
- ④Chibaクリーンアクション
- ⑤都市盆山発掘プロジェクト
- ⑥エコ発信局
- ⑦京葉銀行エコチャレンジ

**フードコーナー・フリーマーケット@屋外エリア
(③千葉千消フェア～ちばを食べてエコしよう～)**



循環型農業を目指して自然由来の有機肥料を多く利用した千葉県の特産品、近隣飲食店の販売

近隣住民の出店によるフリーマーケットを開催

⑥エコ発信局



- ・特設HPの開設
- ・環境に関する情報の発信
- ・広報誌での発信

Mira-Kuru
環境を学び、未来を変える。

事例発表の内容

⑤ ACCS 2018 年次大会 報告

● ACCS とは

ACCS (Asian conference on campus sustainability／サステイナブルキャンパス・アジア国際会議)とは、持続可能な社会を実現のため、アジアにおけるサステイナブルキャンパスの推進を目的として、アジア（日本、中国、韓国、タイ）の大学関係者（教職員・学生）が集まり、各大学の取り組みや成果を紹介し、情報交換を行い、議論を深める場である。2015年に第1回会議が韓国で、2017年の第3回は日本で開催され、2018年の第4回(今回)は韓国で開催された。

● 本会議の概要

日程：2018年11月30日(金) 10時～19時30分

12月1日(土) 9時～19時30分

会場：バビエンスイーツ2(韓国・ソウル・西大門)

主催：韓国グリーンキャンパス協議会 (KAGCI)

共催：サステイナブルキャンパス推進協議会 (CAS-Net JAPAN)、中国緑色大学連盟 (CGUN)、タイ
サステイナブル大学ネットワーク (SUN)

プログラム：1日目 基調講演 (EAUC)、パネルディスカッション

2日目 ディスカッション(各国の高等教育におけるSDGsについて)、学生発表、表彰



↑ACCS会議後のフォトセッション

● 学生プレゼンテーションの概要

4カ国(日本・中国・韓国・タイ)の学生が発表を行った。日本からは千葉大学の他、岩手大学、京都大学、立命館大学から11名の学生が発表を行った。当プレゼンテーションでは審査員による審査が行われ、日本からは立命館大学が「Excellent Incentive Award」を受賞した。

<発表大学(発表順)>

- ・中国石油大学(中国) : Fuel for the Better life-Green campus construction
- ・千葉大学: Student-led EMS at Chiba University

- ・岩手大学：Putting Local Environment at the Core of Society-Action of EMSC
- ・京都大学：Electricity Usage Reduction Measures against Air Conditioning System for Laboratory
- ・立命館大学：Activity report of "Sustainable Week 2018"
- ・KAIST（韓国）：Green Campus in KAIST
- ・ソウル女子大学（韓国）：Activity report about campus activities
- ・延世大学（韓国）：Activity report of "Separation Waste" and "Recycle Paper"
- ・キングモンクット工科大学 トンブリー校（タイ）：KMUTT sustainable university
- ・マヒドン大学（タイ）：Is "trash" our problem?

● 千葉大学の環境 ISO 学生委員会の参加内容

学生 3 名が参加し、1 日目は講演を聴講、2 日目の学生プレゼンテーションでは千葉大学の事例紹介、学生委員会の活動紹介を行った。

● 参加学生

小出ひなた(園芸学部・2年)、中川あかり(法政経学部・1年)、松橋寛太(園芸学部・1年)



千葉大学の取り組み紹介



日本の学生の記念撮影

(2) 学生の環境活動支援

「京葉銀行による学生委員会の環境活動支援」では、学生を国内外に派遣するだけでなく、学生委員会の環境活動を資金面から支援していただいた。

「Chiba Winter Fes 2019 ~千葉からエコを広げよう~」

● 背景・目的

学生委員会の学生が「地域を巻き込んだ環境意識啓発イベントを行いたい」という想いから発案した環境意識啓発イベントで、千葉大学の学生や地域の住民の方に対してエコ意識の啓発することと、地域を活性化することを目的に、昨年度に初めて開催した。

● 概要

日時：2019年2月11日(月・祝) 10:00～16:00

会場：千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館、および周辺屋外

内容：

- ・元千葉ロッテマリーンズ・里崎智也さんによる特別講演「成功の秘訣」
- ・ハイブリッド自動車を電源としたエコステージでの演奏（ダンス、吹奏楽）
- ・水素自動車展示
- ・企業・NPOによる身近な環境への取り組み紹介
- ・千葉大学の環境への取り組み紹介

※この中で京葉銀行との eco プロジェクトについても紹介→

- ・子ども向けのエコ体験教室(ふれあいエコひろば)
- ・マスコットキャラクター大集合
- ・地元の飲食店による出張販売
- ・地産地消の特産品販売&千葉大学で採れた銀杏の無料頒布

※「千産千消フェア」を実施（25ページ参照）

- ・フリーマーケット
- ・エコグッズがもらえるスタンプラリー
- ・千葉市廃棄物対策課・環境保全課によるブース出展
- ・学生委員会による古本回収



主催：千葉大学環境 ISO 学生委員会

協賛：株式会社京葉銀行、株式会社オオクシ、株式会社千葉ハイリビング、株式会社トーワホーム

後援：千葉市、千葉大学

● 京葉銀行のご協賛

京葉銀行から寄付金のうち 10 万円を協賛金として宛て、里崎智也さんによる特別講演、広報用のチラシ・ポスター、当日のパンフレットの制作などの経費の一部として使用した。

● 当日の様子

当日はあいにく雪が降ったが、来場者数は約 600 名であった。



広報用のポスター・チラシ

実施報告

Chiba WinterFes 千葉からエコを広げよう 2019

千葉大学西千葉キャンパス
2019年2月11日(月・祝)
10:00~16:00
入場無料
雨天決行

主催：千葉大学環境ISO学生委員会
後援：株式会社オオクル、株式会社京葉銀行
協賛：株式会社トヨペット、株式会社オオクル、株式会社アーバンリビング、株式会社ヒーハーム
Twitter: @chibawfes

講演
✓ 演出
✓ 展示
✓ ステージ発表
✓ フリーマーケット
✓ スタンブラー
✓ 子どもエコ体験企画
✓ 飲食店 etc...

注目①
里崎智也さんによる演説!
午前11時
@けやき館 大ホール

注目②
エコドライブ教室!
燃料電池自動車『MIRAI』体験!

注目③
ダンス、吹奏楽、ジャグリングなど、千葉大学の多才なサークルによる特別ステージ!

2019 2/11 (月・祝)
10:00~16:00
千葉大学西千葉キャンパス

詳細はホームページをご覧ください
千葉大学環境ISO学生委員会
16時開幕記念ボーリングも行います
14時~16時@けやき館3階

QRコード

お問い合わせ
主催：千葉大学環境ISO学生委員会
千葉市環境部再生エネルギー課
E-mail: iso-student@chiba-u.jp
電話番号: 043-290-3572
Twitter: @chibawfes ← Twitterもチェック!

千葉大学環境 ISO学生委員会
千葉大学の環境マネジメントシステムを
学生主体で運営する団体。NPO法人として
学外で子どもたちへの環境教育や里山活動も行っています。

実施報告

Chiba WinterFes 千葉からエコを広げよう 2019

千葉大学西千葉キャンパスで、2019年2月11日(月・祝)に、昨年に続いて2回目となる「Chiba WinterFes 2019」が開催されました。このイベントは千葉大学で環境活動を行っている「環境ISO(生産委員会)」が、「地域社会を巻き込んだ環境イベントを行いたい」という想いで主催し、学生や地域のみなさまを対象にエコ意識の啓発を行いました。当日は晴れの降る寒い1月となりましたが、約600名の方々にご来場いただきました。(協賛：株式会社オオクル、株式会社京葉銀行、株式会社アーバンリビング、株式会社ヒーハーム、後援：市長・千葉先生)

朝、気温は1度以下で雪が降る中、雪かきを行なうイベントの準備されました。急な内容変更も多くの対応に追われましたが、幸い午後には雪がやみ、屋外ステージでの公演を実現することができました。約600名の学生が参加した一大イベント、寒い冬の雪の中多くの方々にご来場いただき、無事に終えることができました。

講演

元トヨペットマリンズの里崎智也氏の講演を行われました。「成功の秘訣」と題して、約1時間の講演は、笑いあり感動ありで、来場者を大いに楽しませてくださいました。

大ホール

基調講話のため、エコステージでの実施を予定していた吹奏楽団の午前の演奏およびPossumによるジャグリング(フィーバーマスク)を大ホールにて開催しました。また、キャラクター人形の企画では、Dropと共にDA PUMP「U.S.A.」を披露しました。

フードベース

午後のハートフル「ブランチ」や月1回開催している「みどり台バントリー」がパンやカレー等を販売し、千葉大学生協が菓子や千葉大スクーズ、柏の葉キャンパスのアーバンリビング、エヌルギー様によるエコプロジェクト等で作った作物の加工品を販売していました。

また、環境ISO生産委員会が2017年度から京葉銀行と行っているecoプロジェクトでは、地元地元による環境貢献を推進する目的で「千葉生消パッケージ」を食べてエコしよう!という企画を行っています。そのままで、千葉市環境マネジメントシステム委員会が運営する「千葉市環境マネジメントシステム」で採用された起業家が作成した「千葉市環境マネジメントシステム」を販売していました。

エコステージ

千葉トヨペットマリンズの里崎智也氏の講演を行われました。成功の秘訣と題して、約1時間の講演は、笑いあり感動ありで、来場者を大いに楽しませてくださいました。

大ホール

基調講話のため、エコステージでの実施を予定していた吹奏楽団の午前の演奏およびPossumによるジャグリング(フィーバーマスク)を大ホールにて開催しました。また、キャラクター人形の企画では、Dropと共にDA PUMP「U.S.A.」を披露しました。

フードベース

午後のハートフル「ブランチ」や月1回開催している「みどり台バントリー」がパンやカレー等を販売し、千葉大学生協が菓子や千葉大スクーズ、柏の葉キャンパスのアーバンリビング、エヌルギー様によるエコプロジェクト等で作った作物の加工品を販売していました。

また、環境ISO生産委員会が2017年度から京葉銀行と行っているecoプロジェクトでは、地元地元による環境貢献を推進する目的で「千葉生消パッケージ」を食べてエコしよう!という企画を行っています。そのまま、千葉市環境マネジメントシステム委員会が運営する「千葉市環境マネジメントシステム」を販売していました。

エコアクティビティー

エコに関して楽しんでいただくことを目的とした企業や団体、生徒会によるワーク・出展のゾーンです。前回と同じペースで開催されました。

屋外では、千葉トヨペット株式会社が燃費競争車MIRAIの展示を行いました。物語しさで多くの関心を惹きました。

けやき館1階では、千葉トヨペット株式会社、ライオンズクラブ、京葉銀行、千葉市環境部、エコマーク認証局、株式会社千葉エリヤング、株式会社トータルモード、株式会社リリカラがエネルギーに関する展示を行いました。また、千葉市環境マネジメントシステム委員会では、エネルギー・熱エネルギー・水資源の節約と循環、森林資源の活用などを紹介しました。

2階では、千葉市環境部対策課、環境保全課(千葉市地域活性化推進部環境政策課)が子供から大人まで楽しめる「千葉市環境マネジメントシステム」を紹介する「エコマップ」を設置しました。これは、千葉大学の環境への取り組みや環境ISO(生産委員会)の活動紹介のパネル展示を行いました。また、環境ISO生産委員会では、材料や熱エネルギーを活用し、NPO法人Dropsによる活動についても紹介されました。

フリーマーケット

各ブースを巡回するため、フリーマーケットを開催しました。

スタンブラー

スタンブラーにてスランバリーを設置しました。エコに關注する人々にとっておきのアイテムになっており、楽しみながら学べる企画となりました。

キャラクター

千葉に仲間となるキャラクターが会場を盛り上げました。計20種以上で6名が参加してくれました。

千葉大学環境ISO生産委員会15周年記念シンポジウム

環境ISO(生産委員会)は2003年に創立してから既経過して、千葉大学の環境マネジメントシステムで学生主体で運用していました。当団は記念シンポジウムを同窓會催し、「大学の環境マネジメントシステムに学生が関わるということ」をテーマに二日目、若手大がタクトを説いてパネルディスカッションを行いました。

イベント特設ホームページ: <https://chibawinterfes.wixsite.com/2019>

千葉大学環境ISO学生委員会

学生委員会HP: <http://env.chiba-u.ac.jp/>
Twitter: @chibawfes
Facebook: 千葉大学環境ISO生産委員会
Mail: iso-student@chiba-u.jp

2/15 に千葉大学 HP に掲載した実施報告書



ハイブリッド車の電力供給による「エコステージ」



里崎智也さんによる講演会



J:COM テレビによる取材



マスコットキャラクター大集合



フリーマーケット

2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

(1) エコアクション 21 の紹介

エコアクション 21(以下 EA21)は、平成 8 年に環境省が策定したガイドラインである。このガイドラインの運用によって、環境・エネルギーに配慮した組織づくりを進めることができる。主に中小企業を対象にしているため、費用・手続き面で ISO 取得に難がある企業でも取り組め、確実な効果を期待することができる。



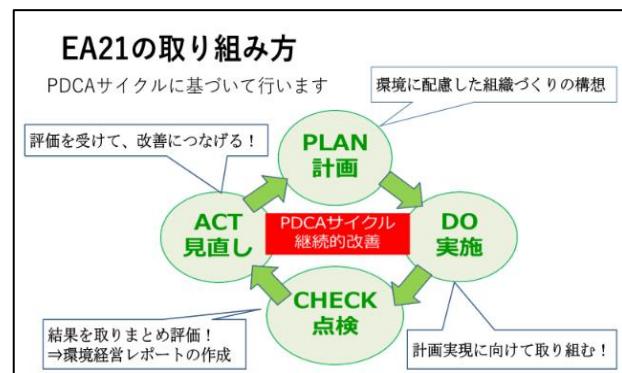
● メリット

- ・環境負荷削減
- ・経営コスト削減
- ・取得に専門知識が必要ない
- ・費用が安い(ISO 比)
- ・企業価値の向上
- ・融資などにおける優遇

● 取り組み方

ガイドラインに従って 14 の要求事項を満たすことが軸となっている。これによって自動的に PDCA サイクルが回るようになっており、継続的な環境負荷削減が見込める。

Check(点検)の段階で、EA21 の運用と結果をまとめた環境活動レポートを作成することが義務付けられている。



EA21 と PDCA サイクル

● 認証・取得

- ①3か月以上の環境経営システム運用
- ②各種データ・書類の管理・提出
- ③環境活動レポートの公表

の 3 点を満たしたうえで、派遣された審査人の審査を通過すると、認証・取得となる。

● EA21 の運営体制

中央事務局と各地にある地域事務局が協力して審査人の擁立や認証・取得制度の維持を担っている



認証・取得制度の運用体制
エコアクション 21 HP より
(<http://ea21.jp/aim/>)

(2)本企画の概要

● 概要

京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。

● 目的

企業が環境に配慮した事業活動を促進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献することから、千葉県内の企業の EA21 取得を促進する。学生委員会が培ってきた環境マネジメント運用のノウハウを地域に還元しつつ、学生にとって貴重な社会経験の場を設ける。

● 内容

- ・勉強会の実施(訪問形式・全 5 回)

企業に訪問し、環境マネジメント運用ノウハウをもとに適切なコンサルを行う。

- ・環境活動レポート作成支援

取得・認証に必要な環境活動レポートの作成支援。環境報告書作成から得た知見が活用できる。

(3)実施体制

本企画は、EA21 中央事務局と地域事務局・千葉環境財団の協力のもとで実施している。

本コンサルティング活動はインターンシップ科目「環境マネジメントシステム実習III」の一環として実施し、単位化される。



(4)進捗状況

現在、株式会社弘報社に対してコンサルティングを行っている途中である。本年度の進捗及び今後の予定は以下の通り。

2018 年 7 月 27 日	第 1 回コンサル実施 コンサルの概要説明及び要求事項 1 ~ 4 の説明
8 月 25 日	第 2 回コンサル実施 要求事項 5 ~ 7 の説明
10 月 21 日	第 3 回コンサル実施 要求事項 8 ~ 11 の説明
2019 年 1 月 20 日	第 4 回コンサル実施 要求事項 12 ~ 14 の説明
2 月 24 日	第 5 回コンサル実施 運用に向けての最終確認
3 月中	3か月の運用期間開始予定
6 月 ~	運用期間終了予定、終了後環境経営レポート作成支援



コンサルティングを実施する様子

3. 学生発案の7つの環境貢献企画

● 概要

環境 ISO 学生委員会のメンバーが、活動の中から得た経験や知見をもとに企画を立案し、幅広い層に對して環境負荷削減・意識向上を呼びかける。昨年度提案された7つの企画の枠組みを受け継ぎつつ、新たに3つの企画を提案した。

企画の実施にあたっては、主に学生委員会が具体的な計画や当日の主な運営を行い、京葉銀行には関係先との交渉や運営の補助などをしていただくという役割分担になっている。

● 目的

地域住民、京葉銀行関係者、千葉大生などを対象として、環境意識の向上を目的とした啓発活動を行うことにより、地域の環境負荷削減と地域活性化を目指す。また、学生にとっては各企画の運営を行うこと自体が環境教育や実務教育の機会となる。

(1) 7つの企画決定までの経緯

本環境貢献企画は、以下のようなプロセスを踏んで決定された。

2018年 5月25日	新入生を含めた有志の学生による初回ミーティング プロジェクト概要確認と本年度の方針説明、新企画の案出しを開始
6月14日	学生委員会内第2回ミーティング 94個出た新企画案を11個にしぼる
6月20日	学生委員会内第3回ミーティング 11個の新企画案をブラッシュアップ（次ページ「企画案リスト」参照）
6月22日	京葉銀行と学生委員会の初回ミーティング 11個の新企画案を提案 ⇒3つの新企画をこれまでの枠組みの中で実施することを決定
7月11日	京葉銀行と学生委員会の第2回ミーティング 新企画を含めた本年度の「7つの環境貢献企画」を決定



6月22日 京葉銀行と学生委員会の
初回ミーティング

案	項目	内容	ターゲット					京葉銀行様の反応の良さ	備考
			社員	社員の家族	企業	千葉大生	一般		
A	外国人向けの環境啓発活動プロジェクト	京葉銀行や成田空港の関係者の方々に協力して頂き、訪日外国人向けに環境啓発活動を行なうながら、日本のエコについて知ってもらう。				●		行うのであれば、千葉千消フェア、その他のイベントの一環として行う。イベント開催場所としては成田空港という選択肢は残るが、この企画単体では見送り。	
B	緑のカーテン	京葉銀行の支店で緑のカーテンを実施する。 地域の方向けに緑のカーテンの説明会・苗配布会を行う。	●			●		店舗支店によっては実施済みであるので、この企画で特段行わなくてもいいのではないか。（見送り）	
C	再生野菜	再生野菜について体験会の開催や冊子の配布を行う。	●	●		●	☆	どこで行けばよいか。子どもエコまつりの一環としてなら行えるのではないか。	
D	雨水地下水化プロジェクト	雨水浸透ますと雨水タンクを設置し、ゲリラ豪雨による谷地の被害の軽減と体験型教育を図る。				●		場所の選定が難しい。私立の学校や廻校となった学校から可能かもしれない。 京葉銀行が関わるいく。（見送り）	
E	フードロス削減・0円食堂	京葉銀行や千葉大学の食堂、農家や飲食店、スーパーで余ったり捨てられたしてしまう食材を回収し、その食材を調理してつくりた料理提供する。	●		●	●	●	企画としては面白いが、食品衛生・許可等の壁が大きく、実現は難しい。（見送り）	
F	リサイクル工場等の見学企画	ピンや缶、ダンボールなどのリサイクル工場や環境配慮企業の見学企画を提案し、地域の子どもたちとその保護者に参加してもらい、分別意識を高めリサイクルの質の向上を促す。			●	●	☆☆	手軽にできそう、良い。子供はどこから連れてくるのか。（コネクションは京葉銀行で作る）エコゼミの一企画として実行することができるのではないか。（F案とこの案のどちらかを実行）	
G	「けやき」環境プロジェクト by 横坂46 & 千葉大学環境ISO	横坂46さんと千葉大学環境ISO 学生委員会が協力して様々な環境活動、主に若者を中心環境への意識を高める活動を行う。				●		横坂46が呼ぶのにお金がかかりすぎてしまう。（見送り）	
H	千葉大学のギンナンを食べよう！	千葉大学内でギンナンを集め、調理可能な状態になるまで加工した後、千葉大生や地域の方々を対象に、ギンナンを使った様々な料理を作ることを目的とした料理教室を開催する。			●	●	☆☆☆	面白いし、手軽に実行できそう。千葉千消フェアの企画として実行したい。 外の人に食べさせておなか壊したらいいから、千葉大生と京葉銀行職員にふるまつたら？ 附属病院のところにも銀杏並木あったよね？ 京葉銀行が関わるいく。（見送り）	
I	ペットボトルオブジェ	不要となるペットボトルを回収し、それらを利用してオブジェを作り、放置自転車を利用した自転車発電によって作られた電力を使用してイルミネーションを点灯する。	●	●	●	●	☆☆	面白いし、手軽に実行できそう。やるならエコまつりの環境でやってもらいたい。 京葉銀行が関わるいく。（見送り）	
J	営農型発電見学会	京葉銀行の取引先の営農型発電を取り入れた農家を見学するプログラムを実施する。			●	●	☆	面白い。これだけの企画をより、エコ発信局の notaとしてできる。「いそちゃんの部屋」と並行して「者エネレシビの部屋」とか作ってもいいかも。	
K	省エネレシビ企画	省エネルギー、省資源につながる料理レシピをまとめ、千葉大生や地域の方々に配布し、日々の生活に役立てもらう。			●	●	☆		

新企画案 リスト（6月20日時点）



「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という想いから、千葉大学環境ISO学生委員会と京葉銀行が協同し、2017年7月に本プロジェクトを発足しました。地域の皆さんや学生、京葉銀行の行員や取引先企業などを含めた千葉県内の多くの方々を対象に、様々な活動を実践するプロジェクトです。
2018年度は一部の企画をバワーアップし、継続して活動しています。

7つの環境貢献企画

千葉大生とともに考える 環境ゼミナール

京葉銀行が主催する企業向けセミナーで、学生が講師としてオフィスエコについて講演しています。農業と太陽光発電を組み合わせた「ソーラーシェアリング」の見学会を新たに実施します。



こどもエコまつり

夏休みにショッピングセンターで京葉銀行主催のイベント内で、学生企画のゲームや工作を用いた、こどもの向むけのエコイベントを行っています。

千葉千消フェア ～ちばを食べてエコしよう～

学生主催のイベント「Chiba Winter Fes 2019」で京葉銀行が農家と協力して県の特産品を販売します。また、新たに市内に悪臭を放つ豚糞を活用し、販売をする企画を実施します。

都市鉱山発掘プロジェクト

学生が製作した小型家庭用回収BOXを千葉市内の京葉銀行10支店に設置し、市民からの回収を促進しています。

Chibaクリーンアクション

館山市沖ノ島周辺のアマモ場再生事業への参画や海岸清掃を行っています。
*アマモ…海のひりかごとも呼ばれる海で堆積する藻類やイカの底泥堆積などで知られています。

エコ発信局

本プロジェクトの特設サイトを設置、学生が記事を執筆し、発信しています。「エコレシピ」の提案も新たに実行しています。

京葉銀行エコチャレンジ

学生が京葉銀行の支店を訪問して「省エネ省資源チェックシート」の原案を作成、これに基き各支店が目標を設定して省エネ省資源に取り組んでいます。

学生委員会の情報発信強化と 環境活動支援



学生委員会の取り組みを日本・世界の大学に発信し、サステナブルキャンパス推進に貢献するため、国内外に学生を派遣する費用を京葉銀行が支援しています。
2018年度はイギリス、フランス、韓国、岩手、長野などで発表を行いました。

エコアクション21 取得コンサルティング

企業の環境マネジメントを推進するため、京葉銀行の取引先企業に対して、学生委員会が「エコアクション21」取得コンサルティングや環境レポートの作成補助を行っています。



eco プロジェクトの紹介ポスター

本プロジェクトwebサイト http://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/



(2) 各企画の進捗状況

①千葉大生とともに考える 環境ゼミナール(通称:エコゼミ)

<概要>

京葉銀行の取引先企業、環境に関心のある企業などを対象に、千葉大学の事例と、環境配慮の知識などについて発信する。京葉銀行が機会を提供し、学生が講師を務める。

<目的>

企業が環境への取り組みを強化することは地域社会、ひいては地球環境への好影響につながる。本ゼミナールがそのきっかけとなるよう、環境にやさしい知識を伝えていく。

<実施状況>

京葉銀行主催の『アルファバンクの後継者塾』（第3期）において、学生委員会が講演した。

日 時：2019年1月11日（金）13:30～18:00

（学生講演時間 13:30～14:00）

場 所：京葉銀行本店3階 セミナールーム

参 加 者：中小企業経営者等 24名(23社)

タ イ プル：「オフィスエコのススメ」

～千葉大学における環境負荷低減と産学連携活動～

発表内容：

I. 千葉大学との環境への取り組み～学生委員会の活動紹介～

II. 学生委員会と企業連携

III. オフィスにおけるエコアクション



発表内容詳細：

セミナー参加者に対し、千葉大学の環境・エネルギー・マネジメント事例、それに伴う成果、オフィスにおいて実践できる省エネ行動を紹介した。また、本プロジェクトなど千葉大学ISO環境委員会の企業連携の事例も紹介した。

当日の様子：

後継者塾に参加した方々に環境や産学連携への理解を深め、会社経営に役立ててもらうとともに、学生にとっては、プレゼンテーションの経験や企業経営者との交流の機会を得ることができた。

「オフィスエコのススメ」 ～千葉大学における環境負荷低減と産学連携活動～



平成31年1月11日(金)
千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト
千葉大学環境ISO委員会

ムダ削減のためのアクションの提案

○教育・啓発活動を行う

→千葉大学では各種研修を行なうほか、ポスター やステッカーによる啓発も欠かしません(参考:配布資料)



千葉大学の産学連携

千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト

①京葉銀行による学生委員会の活動支援

②学生による「エコアクション21 取得コンサルティング

③学生発案の7つの環境貢献企画



会場の様子

学生委員会の紹介

■名称 千葉大学環境ISO学生委員会

■構成員

約200名(学部1年生～学部3年生)



ロゴ:いそちゃん

■主たる活動

- ・千葉大学の環境・エネルギー マネジメントシステムの運用に関する業務
- ・地域社会と連携した環境意識啓発活動
(千葉大学全4キャンパスで活動を展開)

■指導教員

倉阪秀史教授・岡山咲子特任助教

千葉大学の産学連携

千葉大学×京葉銀行 ecoプロジェクト

(2017年度～)



千葉大学の産学連携

Chiba Winter Fes

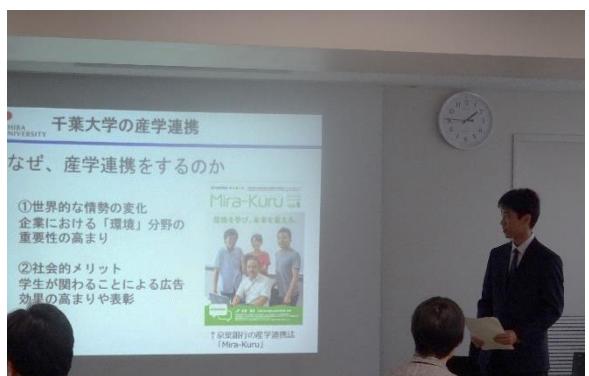
千葉大生や地域の住民の方に
対して環境保全意識の啓発、
地域の活性化を目的に開催

各種企業や自治体に学生自ら
働きかけて協力を得て、様々な
企画を計画

今年も2月11日(祝)に開催予定!



セミナーで使用したスライド(一部)



プレゼンの様子

ソーラーシェアリング(営農型発電)見学会

<概要>

京葉銀行に加え、学生委員会のOBが代表を務める千葉エコ・エネルギー株式会社にも協力をいただき、農業関係者と千葉大学の学生を対象に、農業と太陽光発電を同時にを行う新しい環境・ビジネスモデルである「ソーラーシェアリング(営農型発電)」の見学会・ワークショップを行う。

<目的>

ソーラーシェアリングはエネルギーの千産千消に繋がるだけではなく、売電による副収入を得られるといったメリットがある。しかしながら現状ではまだ十分に認知されておらず、周知を図っていく必要がある。本企画を通して、ソーラーシェアリングの普及の一助とする目的とする。

<実施状況>

本年度からの取り組みであり、実績は今のところないものの、現時点では2019年4月を目途に見学会を実施する構想である。

実施内容（予定）：

- ・現地見学会…千葉エコ・エネルギー株式会社所有の畠（千葉市緑区）で実際にソーラーシェアリングが運用されている様子を見学する。
- ・ワークショップ…ソーラーシェアリング事業の取り組みについて学ぶ。



（参考）千葉エコ・エネルギー株式会社の農場

②こどもエコまつり

<概要>

環境 ISO 学生委員会が培ってきた環境教育の知見やノウハウを活かして、地域の子どもたちを対象としたイベントを実施する。イベントはゲームや工作体験を通じて、環境について考える機会を提供する。京葉銀行はイベントの実施場所・機会を提供する。

<目的>

持続可能な社会の構築が求められている現代において、環境教育は非常に重要なファクターである。本企画では、子ども向けの環境意識啓発のイベントを実施することで環境教育を推進する。

<実施状況>

● 子ども参観日への参加

京葉銀行本店で行われた「子ども参観日“αバンク体験ツアー 2018”」に参加し、環境教育イベントを実施。出席した子どもたちに、ゲーム・エコクイズ・ペットボトルで風鈴作りを行った。これらのアクティビティを通して、子どもたちの意識が少しでも環境に向くことを期待するものである。

日時：2018年8月3日(金) 13:15～14:30

場所：京葉銀行本店営業部

内容：①レクリエーション(アイスブレイク)

楽しい雰囲気づくりのため、学生と子供達が一緒に盛り上げれるゲームを行った。

②エコクイズ

環境に関連するクイズを8問出題した。

③ペットボトルで風鈴作り

ペットボトルから風鈴を作る工作体験を行った。身近なもの・本来なら捨てられるものを再利用して遊べることを学んでもらった。

当日参加学生：9名

結果：27名の子どもが参加した。レクリエーションを行うことによって学生と参加してくれた子ども達が打ち解けることができその後の企画がスムーズに進んだ。エコクイズでは子ども達が積極的に発言する様子も見られた。クイズと工作を通して子供達に身近な環境について考えるきっかけを与えられた。



エコクイズの様子



ペットボトル風鈴作り

● エコまつり in イオンタウンユーカリが丘

千葉県佐倉市にあるイオンタウンユーカリが丘で、子ども向け環境教育イベントを開催した。

体験・ゲームを通して、環境・エコ・分別についての知識を得て家庭に持ち帰ってもらうことを狙いとするものである。

日時：2018年8月26日（日）11:00～15:00

場所：イオンタウンユーカリが丘

内容：下記に記す4つのブースを設けた。

①紙すき体験

牛乳パックからハガキ（紙）を作る体験である。リサイクルを学ぶことができる。

②魚釣り分別ゲーム

釣り上げた魚の裏には様々種類のゴミのイラストがあり、それを正しいゴミ箱に入れるゲームであり、分別について学ぶことができる。

③エコラベル神経衰弱

エコラベルの描かれたカードを使って行う神経衰弱である。エコラベルについて学ぶことができる。

④お絵かきスペース

①で作成したハガキに自由に絵が書けるスペースを設置した。



↑広報用に作成したチラシ

当日参加スタッフ：学生 22名、京葉銀行関係者 6名程度

結果：107名の子ども達がブースに訪れてくれた。子ども達が楽しそうに各ブースを回る様子が見られた。リサイクル・分別・エコラベルについて体験を通して伝えることができた。



①紙すき体験



②魚釣り分別ゲーム



③エコラベル神経衰弱



④お絵かきスペース

③千葉千消フェア～ちばを食べてエコしよう～

<概要>

地産地消を千葉に根差した形で行う企画である。昨年度同様、学生委員会主催の Chiba Winter Fes 2019 内において千葉の特産品及びその加工品を販売し、地産地消を推進することで、大学関係者や地域住民を対象に環境意識の啓発を図る。

<目的>

地産地消は食材の輸送距離を減らすことによって輸送に伴う CO₂ の排出を抑え、環境への負荷を小さくするという取り組みであり、特産品の販売を行うよって地産地消に貢献する。また、特産品を PR することで市町村の地域活性化を支援する。

<実施状況>

学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2019」の飲食ブースにおいて、千葉の特産品・特産品を加工した食品を販売。京葉銀行が農家等と連携して出店。

日時：2019年2月11日（月・祝） 10:00～16:00

結果：学生や地域の市民、親子連れに多くご来場いただいた。当 日は、有機栽培方法を採用している野菜農家・落花生の加工品取扱業者・千葉県香取市の食品取扱業者の3店舗に参加していただき、焼き芋やにんじん、小松菜、ほうれん草、ラディッシュ、ベビーリーフなどの有機野菜、から煎り落花生、落花生ペースト、わらび餅、マッシュルーム、干し芋などの販売を行った。販売の際には、京葉銀行の方々にも店頭販売を行っていただいた。



イベントポスター



香取市の食品の販売の様子



落花生加工品の販売の様子



有機野菜の販売ブース

千葉大学のギンナンを食べよう！

<概要>

本年度の新企画として、千葉大学構内のギンナンを学生委員会と京葉銀行が共同で収穫する取り組みを行う。収穫したギンナンを地域の方へ配布することで、身近な食資源の活用を行う。

<目的>

千葉大学構内は秋ごろになると例年ギンナンの実による悪臭が漂うという実態があり、ギンナンの実を採取することで悪臭の軽減を図る。また身近な樹木の実を収穫・販売することで、学生や地域の方々の身近な食資源に対する関心を高めるとともに、新たな地産地消としての形を模索する。

<実施状況>

○ギンナン収穫

千葉大学構内においてギンナンの拾得・皮むき・洗浄・乾燥を行った。

2018年10月上旬に学生を中心にギンナンの拾得を行ったほか、10月18日には学生と京葉銀行の行員5名が共同でギンナンの皮むきと洗浄・乾燥を行った。収穫したギンナンの数は約3000個となった。



○ギンナン配布

2019年2月11日開催の「Chiba Winter Fes 2019」の飲食ブースにおいて、収穫したギンナンをイベント来場者に向けて配布した。また、配布の際には銀杏収穫の様子や、京葉銀行考案のギンナンのかき揚げレシピを掲載したパネル展示を行い、収穫の取り組みの紹介や食資源としての活用の促進を行った



パネル展示の様子



試作したギンナンのかき揚げ

④Chibaクリーンアクション

<概要>

学生と行員・地域住民が共同で環境保全のためのボランティア活動を行う。今年度は館山沖ノ島を中心に環境保全活動に取り組むNPO法人「たてやま・海辺の鑑定団」と連携し沖ノ島周辺の環境保全活動への参加を通じて「持続可能な形で自然を守りながら活用する仕組みづくり」を実際の活動を通じて学んだ。

<目的>

ボランティア活動を通じて参加者の環境意識を高め、積極的に環境保全活動を行うきっかけづくりを行うことが目的である。

<実施状況>

今年度の Chiba クリーンアクションで実施した活動は以下の 4 つである

① 海岸清掃活動

日時：2018 年 10 月 6 日 午前

場所：沖ノ島海水浴場

内容：海のごみ問題に世界規模で取り組む「国際クリーンアップ」キャンペーンに参加し海岸の清掃活動を行った。集めたごみはガラス・金属・その他に分別した。また、前日の雨で漂着した竹の処理も行った。キャンペーン参加者全員で合計約 160 キロのごみを収集した。



集合写真



海岸清掃の様子

② 講演会

日時：2018 年 10 月 6 日 午後

場所：みなとオアシス「渚の駅たてやま」

内容：eco プロジェクト主催で NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団理事長の竹内聖一氏を講師に招き

「活かそう地域の宝物！南房総館山・沖ノ島の自然環境保全と活用のしくみづくり」と題して講演会を開催した。講演内容は前半は午前中に海岸で見つけたものや以前拾われた珍しい漂着物を実物を交えての紹介、後半は鑑定団設立の経緯からその目標、活動内容についての説明であった。



講演会の様子



海の漂流物

③ アマモの苗床つくり会参加

日時：2018年11月23日 午前

場所：館山船形漁業協同組合

内容：9月に選別したアマモの種子を植えるための土づくりを行った。ここでは千葉大学の落ち葉を用いて作った「けやきの子」を一部腐葉土の代わりに用いて実験用のプランターを制作した。その後アマモの種子の植え付けを行った。また、苗床つくり終了後に船形漁港を見学した。



苗床づくりの様子



種植えの様子

Q.アマモとは？

A.「海のゆりかご」とも呼ばれる稚魚の保育場、酸素の保有や水質の浄化で環境保全に重要な役割を果たす海草。

④たてやま・沖ノ島・里海シンポジウム出展

日時：2月16日

場所：イオンタウン館山 ハニーズ横特設会場

内容：会場の一角に eco プロジェクトとしてブース出展を行った。3枚のパネルを用いて学生委員会の担当プロジェクトの活動紹介を行い、来場者にプロジェクトについてまとめたビラを配布した。子供向け企画では環境に悪い内容の的を輪ゴム鉄砲で撃つ射的ゲームを行った。



射的ゲームの様子



パネル展示の様子

⑤都市鉱山発掘プロジェクト

<概要>

京葉銀行の支店に小型家電の回収ボックスを設置し、銀行の顧客（市民）や行員から不要となった小型家電を集めてリサイクルする。

<目的>

小型家電の回収・リサイクルを促進することにより、環境負荷低減や資源再利用への意識を啓発する。

<実施状況>

小型家電回収ボックスを京葉銀行の支店(10 店舗)に設置し、回収ボックスに投入された小型家電はリバーホールディングス株式会社の協力のもと、貴重な資源として回収・リサイクルされる。

回収期間：2018 年 4 月 20 日（金）～2019 年 3 月(予定)

設置場所：千葉市内の京葉銀行 10 支店

本店営業部、本町支店、西千葉支店、みどり台支店、稻毛支店、宮野木支店、こてはし台支店、さつきが丘支店、新検見川支店、幕張支店

役割分担：

①千葉大学環境 ISO 学生委員会

盗難防止措置など、国の規定に則った仕様で回収 BOX を製作

②株式会社京葉銀行

R-HD 収運積替委託先として届け出るため、役員が講習を受講

千葉市内 10 支店に回収 BOX を設置

③リバーホールディングス株式会社 (R-HD)

国から認定を受けた小型家電の認定事業者。小型家電の回収・運搬とリサイクルを行う。

回収品目：8 品目

携帯電話(スマートフォン含む)・タブレット端末、時計、携帯ゲーム機、デジタルカメラ、

音楽プレーヤー、電子辞書、電子書籍端末、電卓

回収 BOX の設置：

4 月 16 日（月）に小型家電回収開始に先立ち、京葉銀行西千葉支店及びみどり台支店に学生が訪れ、製作した回収 BOX を設置するとともに支店の職員に向けて本企画の説明を行った。

4 月 24 日（火）には京葉銀行本店営業部にて NHK による取材が行われた（42 ページ参照）。また、R-HD の広報による取材も行われ、同社 HP でコラムとして掲載された。

回収状況： 14.0kg （市内 10 支店合計／1 月 17 日時点）



4/16 回収 BOX 設置の様子（左：西千葉支店、右：みどり台支店）



4/16 学生による企画説明の様子（同上）



4/24 NHK による取材の様子

⑥エコ発信局

<概要>

京葉銀行のWebやチラシ、動画の配信を通じ、京葉銀行の取引先企業や行員、市民、千葉大学生に向けて環境負荷削減のための様々な情報発信を行う。京葉銀行が場を提供し、学生委員会がコンテンツを作成する。

<目的>

環境負荷削減のためのアイデアなどを学生目線で発信し、環境意識の啓発・行動の実践を促す。

<実施状況>

● 特設ホームページ

2017年9月に京葉銀行のサイト内に開設していただいた本プロジェクトの特設ページ、Webページを通して、プロジェクトや各企画について発信した。

● いそちゃんの部屋

特設ページの中に「いそちゃんの部屋」と題した専用のページを設け、身近なエコに関する知識を発信していく。季節やブームに合わせ、3ヶ月に一度、季節毎に更新する。

テーマ：「エコレシピ」

ガスをあまり使わない、洗い物が少なくてすむ、ゴミの量を少なくできるなど、環境に優しいレシピを特集した。また、エコレシピは千葉大学内にポスターとして掲示を行った。



本プロジェクトの特設ページ

►千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト 7つの環境貢献企画 中間報告◀

(1)千葉大生と考える環境ゼミナール

今年度は1月11日(金)に行われる京葉銀行主催の「アルファバンクの後継者塾」のお時間をお借りし、また、環境や産業選択についての講演を行う予定です。

また、定期発表(耕作地の上の太陽光パネルを設置し発電をする)の発電・光電の仕組みや農作物への影響などを農場や小会にてご紹介する予定です。農作物に加えて電子も千葉千消!

(2)こどもまつり

今年度は8月12日、子ども達に向けた環境祭典イベントを開催しました。本企画の第一弾として行われた「アバランチフェスティバル」では、環境イメージの実施やペトボタルで廃棄物をする工作を行いました。第二回のイエヌコカリが丘店で行われた「アバランチフェスティバル」では、底面に廃棄物をする工作を行いました。



(3)冬青葉アート

千葉市での地元地元活動を行なっていくプロジェクトです。活動の一環となるChiba Winter Fest 2018では、2月11日(月)・12日(火)千葉大学西千葉キャンパスにて開催される。委員会主催の「地域社会を巻き込んだ環境祭典」をテーマとしたイベントです。環境に関する展示や体験企画が行われるほか、千葉県産の野菜や加工品などを販売する予定です。さらに、秋に大学内で落ちていた落葉を食べられるように加工したものを作れる予定です。



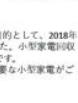
(4)Oliveクリーニングーション

今年度は鎌山市小川島中心に活動させていた「NPO法人たてやま・海辺の鑑定団」のアマモを育生するための活動に参加しました。参加した活動はアマモの種子選別、アマモの海岸清掃、アマモの床作りです。これからはアマモのシンボルツムや、アマモの苗を移植する活動に参画していく予定です。



(5)ちば山手プロジェクト

千葉市内の20店舗で、コト一株・プリンターにおける紙の使用量を削減して頂き、その取り組み状況や成長を千葉大学環境ISU委員会の学生が評価・表彰させて頂き、という活動を行っています。現在までの12月に各支店が達成した目標をもとに、環境者の許諾を得たものです。



(6)エコ発信局

身近なところから環境意識を高めよう、エコに関する豆知識をチラシやecoプロジェクト公式サイト「いそちゃんの部屋」にて年4回発信しています。新春号では環境に優しいレシピ、エコレシピをグリーンハウスさんの協力のもと特集しております。※本誌です。

(7)京葉銀行エコチャレンジ

千葉市内の20店舗で、コト一株・プリンターにおける紙の使用量を削減して頂き、その取り組み状況や成長を千葉大学環境ISU委員会の学生が評価・表彰させて頂き、という活動を行っています。現在までの12月に各支店が達成した目標をもとに、成長の様子を表彰する予定です。

いそちゃんの部屋

新春号

● Instagram と YouTube の開設

これまでの特設ページでの発信に加えて、若者に普及している Instagram や YouTube での発信を新たに開始した。いそちゃんの部屋・新春号に掲載したエコレシピの作り方を実際に撮影し、動画として Instagram と YouTube に投稿を行った。



↑ Instagram への投稿

← YouTube への投稿

● LINE による広報

京葉銀行の公式 LINE にて協同プロジェクトに関する広報を行っていただいた。



Chiba Winter Fes 2019
の広報

⑦京葉銀行エコチャレンジ

<概要>

学生が京葉銀行支店を訪問してエコアイデアを提案し、それをもとに支店ごとに省エネ・省資源に関する目標を設定する。支店ごとに目標達成に向けて取り組んだのち、取り組み状況や成果などを学生が評価する。取り組みの結果をもとに支店への表彰も行う。

<目的>

学生と京葉銀行がエコアイデアの提案という形で交流し、各支店の環境意識向上から環境負荷削減及び経費節減を目指す。学生の貴重な社会経験の場とすることもねらいの1つである。

<実施状況>

● 「省資源行動＆目標設定＆実施計画策定シート」の完成

本年度は前年度の策定シートを改良し、策定項目を数値評価のしやすい”紙の削減率”のみに絞り、「省資源行動＆目標設定＆実施計画策定シート(図1)」を作成した。

● 各支店でエコチャレンジの実施

千葉市内の20支店で省資源行動＆目標設定＆実施計画策定シートを記入して、コピー機・プリンターにおける紙の使用量の削減に1か月間取り組んで頂いた。その際、コピー機・プリンターの近くに学生委員会が作成した紙削減啓発ポスター(図2 & 3)を貼り、視覚的に取り組みについて周知した。

● 表彰

学生がコピー機・プリンターのデータから紙の使用量を評価し、支店への表彰を行った。表彰の部門としては

- ① 前年度からの総印刷枚数の削減率
- ② 総印刷枚数が減少している且つ、総印刷枚数に対するカラー印刷の減少率
- ③ 総印刷枚数が減少している且つ、総印刷枚数に対する片面印刷枚数の減少率(両面印刷は片面2枚分)

の3部門を設け、表彰を行った。また、策定終了後に各支店に事後アンケートを実施し、そのデータをもとにこの企画自体への評価や各支店の紙の削減に向けた意識度、工夫点などを分析し、表彰するときに分析結果を発表した。

● 実践

- ・2018年7月～9月に省資源行動＆目標設定＆実施計画策定シートを作成した。
- ・2018年11月に紙削減啓発ポスターを作成した。
- ・2018年12月に省資源行動＆目標設定＆実施計画策定シートを各支店に配布し、記入した。
- ・2019年1月に千葉市内の20店舗でエコチャレンジを実施した。

● 評価・表彰

紙削減啓発ポスターを用いて1か月間、千葉市内の20店舗で実施した取り組みの結果を評価し、最も優れた紙の削減を達成した支店の表彰を行った。また、行員と学生がディスカッションを通じて銀行内でできる省資源のための取り組みについて考えた。

日 程：2019年2月26日（火） 17:00～18:00

場 所：海浜幕張支店

実施内容：学生委員会の活動紹介、エコチャレンジの結果報告、
学生とのディスカッション、表彰式



ディスカッションの様子

エコチャレンジの結果報告

実施した千葉市内の20支店全体を見ると必ずしも良い結果が出たとは言い切れなかった。

最も優秀な成績を収めた海浜幕張支店の前年度からの削減率は以下のようない結果となった。

①総印刷枚数…61%削減、②カラー印刷枚数…59%削減、③片面印刷枚数…58%削減

学生とのディスカッション

テーマ：～今後、資源を削減するためにはどうすればよいか～

エコチャレンジで最も優秀な成績を収めた海浜幕張支店の行員の方々と学生が資源削減のためにはどのような取り組みがあるか、電気・紙・水の3つの項目ごとに案を出して発表を行った。

ディスカッションで出た案（一部）

- ・目に付く場所に省エネ・省資源啓発ステッカーを貼る
- ・紙の印刷枚数を毎日チェックし、省資源意識を保つ
- ・タブレット端末を積極的に使用する
- ・残業を減らして、電気を使用する時間を減らす



コピー機のディスプレイで
独自の啓発を行う様子

ディスカッションを通じて、「コピー機のディスプレイに啓発ポスターを貼ったこと」や「朝礼で支店長より紙削減に努めるように声掛けがあったこと」など、海浜幕張支店独自の取り組みを実施したことが大幅な削減につながった理由であることが分かった。

表彰式

学生委員会から海浜幕張支店に対して、賞状と副賞として省エネ・省資源ステッカーが贈られた。



表彰式の様子

7色の虹を千葉から未来へ～千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト～																			
京葉銀行エコチャレンジ																			
作成：千葉大学環境ISO学生委員会																			
【支店名】																			
〈省資源行動チェック欄〉																			
<p>【使い方】 チェックシートを用い、「エコアイディア」が実践できているかチェックし、「実施状況」欄に○△×●を付けてください。</p> <p>○=実施できている △=実施しているが徹底されていない、できていないところもある ×=実施できていない ●=該当しない(当支店には該当しない、現時点では該当しない、など)</p>																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">【チェックシート】</th> <th></th> </tr> <tr> <th>削減対象</th> <th>機器等</th> <th>エコアイディア</th> <th>実施状況 ○△×●</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">紙</td> <td rowspan="4">プリンター コピー機</td> <td>印刷やコピーの枚数が最小限のものとなるように、2in1や両面印刷を推進する呼びかけ(ポスター・ステッカーの貼付、または声かけなど)を行っている</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ミスコピーなどで片面使用済みの用紙(裏紙)を入れる分別回収ボックス等を設置し、可能な限り裏紙利用を促進している</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コピー機の使用方法の徹底やプリント前に確認することで、ミスコピーの削減を推奨している</td> <td></td> </tr> <tr> <td>打ち合わせや勉強会のペーパーレス化を図っている</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			【チェックシート】			削減対象	機器等	エコアイディア	実施状況 ○△×●	紙	プリンター コピー機	印刷やコピーの枚数が最小限のものとなるように、2in1や両面印刷を推進する呼びかけ(ポスター・ステッカーの貼付、または声かけなど)を行っている		ミスコピーなどで片面使用済みの用紙(裏紙)を入れる分別回収ボックス等を設置し、可能な限り裏紙利用を促進している		コピー機の使用方法の徹底やプリント前に確認することで、ミスコピーの削減を推奨している		打ち合わせや勉強会のペーパーレス化を図っている	
【チェックシート】																			
削減対象	機器等	エコアイディア	実施状況 ○△×●																
紙	プリンター コピー機	印刷やコピーの枚数が最小限のものとなるように、2in1や両面印刷を推進する呼びかけ(ポスター・ステッカーの貼付、または声かけなど)を行っている																	
		ミスコピーなどで片面使用済みの用紙(裏紙)を入れる分別回収ボックス等を設置し、可能な限り裏紙利用を促進している																	
		コピー機の使用方法の徹底やプリント前に確認することで、ミスコピーの削減を推奨している																	
		打ち合わせや勉強会のペーパーレス化を図っている																	
〈目標設定 & 実施計画策定欄〉																			
<p>【使い方】 支店で12月から1ヶ月間取り組む目標を設定し、目標を達成するための具体的な実施計画を策定してください。削減・評価対象は紙(用紙)としてください。実施計画は省資源行動欄にあるエコアイディアでもよいですし、支店オリジナルのアイディアでもOKです。</p>																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">【目標設定&実施計画】</th> </tr> <tr> <th rowspan="5">例</th> <th>削減対象</th> <td>紙</td> </tr> <tr> <th>目標</th> <td>12月からの1ヶ月間の紙使用量について、前年度比2%削減</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>実施計画</th> <td>1. 印刷やコピーの枚数が最小限のものとなるように、2in1や両面印刷を推進する呼びかけを行う 2. 片面使用済みの用紙(裏紙)を入れる分別回収ボックスを設置し、裏紙利用を促進する 3. 不要となった用紙を古紙として回収する</td> </tr> <tr> <th>推進責任者</th> <td>XX支店長</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			【目標設定&実施計画】			例	削減対象	紙	目標	12月からの1ヶ月間の紙使用量について、前年度比2%削減	実施計画	1. 印刷やコピーの枚数が最小限のものとなるように、2in1や両面印刷を推進する呼びかけを行う 2. 片面使用済みの用紙(裏紙)を入れる分別回収ボックスを設置し、裏紙利用を促進する 3. 不要となった用紙を古紙として回収する	推進責任者	XX支店長					
【目標設定&実施計画】																			
例	削減対象	紙																	
	目標	12月からの1ヶ月間の紙使用量について、前年度比2%削減																	
	実施計画	1. 印刷やコピーの枚数が最小限のものとなるように、2in1や両面印刷を推進する呼びかけを行う 2. 片面使用済みの用紙(裏紙)を入れる分別回収ボックスを設置し、裏紙利用を促進する 3. 不要となった用紙を古紙として回収する																	
	推進責任者	XX支店長																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="4">1</th> <th>削減対象</th> <td>紙</td> </tr> <tr> <th>目標</th> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>実施計画</th> <td></td> </tr> <tr> <th>推進責任者</th> <td></td> </tr> </tbody> </table>			1	削減対象	紙	目標		実施計画		推進責任者									
1	削減対象	紙																	
	目標																		
	実施計画																		
	推進責任者																		
<p>【評価基準】印刷機のデータから、全店において「総印刷枚数」「片面or両面印刷の枚数」「カラーor白黒の印刷枚数」の3種類のデータが得られる。それを元に昨年度の使用データと比較する。</p>																			

図 1：省資源行動&目標設定&実施策定シート



エコチャレンジ 実施中！

1/4～1/31まで

評価対象

- ①総印刷枚数の削減率
- ②カラー印刷の削減率
- ③片面印刷の削減率



無駄な印刷はしない！
両面印刷・モノクロ推奨！

千葉大学と京葉銀行は地域活性と環境に貢献するため、昨年度「7色の虹を千葉から未来へ～千葉大学×京葉銀行 ecoプロジェクト～」をスタートさせました。

千葉大学は国際規格のISO14001を取得し、「千葉大学環境ISO学生委員会」を中心に学生主体の環境マネジメントシステムを実施してきました。また、2012年には当行と包括連携協定を締結しました。

このような背景から、このたび京葉銀行と千葉大学環境ISO学生委員会が協同し、本プロジェクトが発足しました。

「学生発案のユニークな7つの環境貢献企画」の一つとして、「京葉銀行エコチャレンジ」があります。本企画は各支店でのコピー機・プリンターにおける紙の使用量を1カ月間できるだけ削減にご協力頂き、その後、学生がコピー機・プリンターのデータから紙の使用量の取り組み状況や成果などを評価し、支店へ表彰を行わせて頂きます。

図 2：紙削減啓発ポスター①



エコチャレンジ 実施中！

紙使用量削減期間1/4～1/31

総印刷枚数削減率〇〇%
カラー印刷削減率〇〇%
片面印刷削減率〇〇%

評価対象

- ①総印刷枚数の削減率
- ②カラー印刷の削減率
- ③片面印刷の削減率



紙使用量の削減にご協力下さい

図 3：紙削減啓発ポスター②

4. プロジェクトの広報内容と結果について

(1) プレスリリース

プレスリリースは千葉県政・市政記者クラブ（一部、文部科学省記者会）への配布のほか、Web 配信のリリース（PRTIMES）を行った。そのほか、特設サイトや千葉大学のHPへの掲載も行った。

日付	タイトル・Web リリースの URL	記者クラブ配布	Web リリース
2018年 4月13日	「都市鉱山発掘プロジェクト」を学生・銀行・企業の協同で開始。 千葉大生が手づくりした小型家電回収 BOX を、京葉銀行の窓口に設置。 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000265.000015177.html	○	○
5月17日	千葉大学が「International Green Gown Awards」を受賞。世界で最も深く学生が環境の取り組みに関与する大学として表彰されました https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000282.000015177.html		○
6月22日	世界の大学の環境に関する取り組みを促進する「EAUC（大学環境協会）」の年次大会において学生が発表 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000288.000015177.html		○
8月17日	イオンタウンユーカリが丘で8月26日「こどもエコまつり」開催 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000298.000015177.html	○	○
8月20日	文部科学省にて「千葉大学環境 ISO 学生委員会」による企画展示 8/20～9/25 開催 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000299.000015177.html	○	○
8月28日	千葉大学の学生が、9月4日に文部科学省にて企画イベントを開催 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000305.000015177.html	○	○
9月14日	学生と銀行が協同して地域活性と環境に貢献する「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」がパワーアップ！ https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000300.000015177.html	○	○
9月28日	海辺の環境保全に取り組む「Chibaクリーンアクション」スタート https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000314.000015177.html	○	○
2019年 1月16日	「Chiba Winter Fes 2019」を2月11日(月祝)に開催！里崎智也氏の講演も！ https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000332.000015177.html	○	○
2月28日	千葉大生の提案で京葉銀行がエコチャレンジ！用紙使用量の大幅削減に成功 https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000336.000015177.html		○

12月19日	環境ISO学生委員会の学生が韓国・ソウルで開催の国際会議に参加 https://mainichi.jp/univ/articles/20181217/org/00m/100/011000c
2019年 1月23日	環境ISO学生委員会の学生がオフィスエコについて講演 企業関係者に https://mainichi.jp/univ/articles/20190123/org/00m/100/002000c
2月7日	元千葉ロッテ・里崎氏出演 学生企画の環境イベント開催 2月11日に西千葉キャンパス https://mainichi.jp/univ/articles/20190204/org/00m/100/010000c
2月28日	射的でエコ意識向上！？ 環境ISO学生委員会がイベントにブース出展 https://mainichi.jp/univ/articles/20190227/org/00m/100/004000c

(3)新聞記事

● 2017年度プロジェクト報告会

2018年4月20日 読売新聞

千葉大企業との連携に力
交付金減で積極姿勢
人材育成へ講座や就業体験

京葉銀行の知力を得て行った環境保護活動について発表する千葉大的学生たち（千葉市中央区）

2018年3月20日 千葉日報

千葉大と京葉銀のプロジェクト
千葉大消えんフェアなど実施

2018年4月22日 産経新聞

京葉銀との共同事業
千葉大生が活動報告

千葉大が活動を活かして地
域活性化や環境意識の向上
を図る企画や、京葉銀行の
共同業、ecoプロジェクト
の活動を紹介する「千葉大と京葉銀の
報告会」が千葉市の京葉銀
など本部で行われた。毎年
20年7月に発足し、学
園祭や卒業式などの開催場所
で行われる企画で、今年は7月
20日、千葉大の上田由紀子
准教授らが出席した。

活動は、同大環境ISO
学生委員会の学生約150
人が中心で企画。京葉銀の
支援を得ながら、県内の
企業向け環境講座の講
師を学生が務めたり、県産
の食材を恵んで消費したり
など、千葉大が取り組む
環境活動を紹介する「千葉消
えんフェア」イベント
を実施した。

環境を題材とした教養会
にも参加したことなどを報告し
た。秋さんは、「非常に貴重な経
験ができた」と話した。

報告書を読み取った顧客
は、「企画が面白かった」と感
じた。

京葉銀は、地域活性化や
環境への対応で貢献できた
なら大変嬉しい。引き続
き支援していきたい」と応
じた。

● 各種企画等

2018年4月19日 東京新聞



2018年4月20日 朝日新聞



2018年4月21日 千葉日報



2018年4月23日 金融経済新聞



2018年5月10日 朝日新聞



2018年8月28日 読売新聞



2018年10月7日 千葉日報



沖ノ島の環境保全へ

ヒューマンエコロジー

(4) テレビ露出

- 2018年4月24日 NHK おはよう日本



- 2018年7月9日 J-COMニュース

学生委員会主催の省エネイベントのニュースの中で本プロジェクトについても触れられた。



(5) 文部科学省における企画展示・セミナー開催

2018年8月20日～9月25日に、文部科学省新庁舎エントランスにおいて、本プロジェクトを含む学生委員会の取り組みについて展示広報を行った。また、9月4日には同省の情報ひろばラウンジにて展示に関するセミナーを行い、「千葉大学の取り組み」「学生委員会の活動」「学生と京葉銀行による協同 eco プロジェクト」の3本柱で発表した。



(左) 展示作業に携わった学生たち (中央) セミナーの様子 (右) 本プロジェクトを紹介する浅輪



展示の様子（文科省の正面玄関のすぐ横のスペース）

(6) イベントにおける広報

本プロジェクトについては学生委員会が出展した環境系イベントやセミナー等でも広報したほか、国内・海外で開催された会議に参加し、本プロジェクトを含む学生委員会の取り組みについて発表した。

- 2018年6月2日～3日 エコライフフェア



- 2018年6月14日 ちばし環境フェスティバル



- 2018年6月19日～21日 EAUC（大学環境協会）年次大会（英・キール大学にて開催）



- 2018年9月6～7日 環境マネジメント全国学生大会



- 2018年10月8日 エコメッセ in ちば



- 2018年10月13日 かまがや環境フェア



- 2018年11月17日 サステイナブルキャンパス推進協議会年次大会 (CAS-Net JAPAN)
- 2018年12月1日 第4回サステイナブルキャンパス・アジア国際会議(ACCS)



- 2018年12月6日～8日 エコプロ 2018



(7) 表彰

● International Green Gown Awards 2017-2018 Student Engagement 部門

賞の概要：

「インターナショナル・グリーン・ガウン賞」は、大学で行われている優れた持続可能性の取り組みを表彰する世界的な表彰制度で、国際連合環境計画（UNEP）と大学環境協会（EAUC：The Environmental Association for Universities and Colleges）によって運営されている。「Continuous Improvement: Institutional Change」「Community」「Student Engagement」の3部門があり、千葉大学は「Student Engagement（学生の関わり）」の部門で受賞した。賞のエントリーの際に、京葉銀行とエコプロジェクトを行っていることや京葉銀行から資金援助をいただいていることを記載した。

表彰式：

2018年5月16日にフランス・マルセイユで開かれ、千葉大学からは環境管理責任者の倉阪秀史教授と環境ISO学生委員会の学生2名が参加した。



INTERNATIONAL WINNER

STUDENT ENGAGEMENT
Chiba University,
Japan

TOP 3 LEARNING

1. We created a student committee within the university to operate a university EMS.
2. As a part of the education using the "Accreditation and Qualification System", we found students took on various EMS roles.
3. We have learned that student-led EMS has not only environmental and economic effects but also educational.

WHAT THE JUDGES THOUGHT...

Judges were impressed with this great student engagement example of a university putting faith in its students. The complexity and long-term demands of implementing an EMS and going through ISO accreditation are not easy tasks. Student engagement is a huge task and to be applauded. This is a powerful hands-on lab for students to learn and do. A perfect balance of top-down and bottom-up with a profound engagement outcome. Very impressive.

SCALE OF IMPACT

This method can be introduced not only in local universities but also in educational institutions overseas. In recent years, Chiba University has sent members from the Committee to conferences, both domestic and international. They spread our green endeavours to people in various academic fields. Some critics might say that our organisation originated from a university and is controlled by other groups. However, we believe that it is only our university-affiliated organisation that is managed entirely by students.



(左下) 表彰式の様子 (右上) 表彰事例 (右下) たて

(8) 産学連携情報誌『Mira-Kuru』

2018年9月発行の産学連携情報誌『Mira-Kuru』にて学生委員会顧問の倉阪秀史教授と学生委員会の活動を特集していただいた。背表紙では本プロジェクトの活動紹介も掲載された。

5、まとめと来年度の展望

まず、昨年度の本プロジェクトの発足から現在に至るまで、皆様には多大なるご尽力とご支援を賜りました。この場をお借りして深く御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

「学生委員会の環境活動支援」では、以前の学生委員会では考えられない3回もの海外派遣を支援していただきました。国内外への派遣が活発になったことにより、海外や他大学の取り組みを学び、学生委員会の活動に取り入れるなど、私たちの知見及び活動の幅を大いに広げることができました。

「エコアクション21（EA21）取得コンサルティング」では、京葉銀行様が長年培つてこられた地域社会とのコネクションを活用し、一学生団体に過ぎない学生委員会に対して、地域企業にコンサルティングをするという貴重な機会を与えいただきました。

パワーアップした「7つの環境貢献企画」では、昨年度よりも企画数が増えた中で、より一層のご協力を賜り、行員の方々には幾度も大学に足を運んでいただきました。さらに各企画において惜しげもなく場所や機会の提供してくださったことやイベント運営に参加して頂いたことは、微力な私たちにとってこれ以上ない支えとなりました。特に昨年度企画し、本年度より本格的に始動した「④Chibaクリーンアクション」では、京葉銀行様にNPO法人「たてやま・海辺の鑑定団」様をご紹介いただき、「館山」「海の生物多様性」といったこれまで学生委員会が持ち合わせていかなかった活動フィールドの開拓を行うことが叶いました。Chiba Winter Fes 2019におきましてもご協賛いただき、また、「③千産千消フェア」として大変寒い中、ブースに立っていただきました。

こうして1年を振り返ってみると、私たち千葉大学環境ISO学生委員会が本年度活動できたのはecoプロジェクトを通じた京葉銀行様をはじめとする皆様のご支援があったからだといつても過言ではございません。重ね重ね、御礼申し上げます。

個人の意見で恐縮ですが、私は本プロジェクトの発足以来、メンバーの1人として活動を続けてまいりました。はじめは1人でメールも打てなかっただけが実務や企画を提案・実施する難しさを身をもって学び、成長することができたのは京葉銀行様にご提供いただいた本プロジェクトの活動があったからに他なりません。加えて、活動を通じて通常の学生生活ではあり得ないような、大変貴重な経験をすることができたのもすべてご支援をいただいた皆様のおかげでございます。このような自身の経験から本プロジェクトは発足時の目的である「学生の社会勉強」に十二分に寄与しており、京葉銀行・千葉大学の双方の発展、ひいては地域の更なる発展につながると確信しております。

来年度の展望といったしましては、「ソーラーシェアリング（蓄農型発電）見学会」等の未実施・継続中の企画を進め、本年度提案した企画を完遂したいと考えております。その上で企画数の増加に伴い、企画の実施が自己目的化してしまったという点及び長期的なプロジェクトの継続性という観点を踏まえまして、プロジェクトの全体像を見直し、「数」より「質」に重きを置いた活動を行ってまいりたいと考えております。

最後に、もう1度皆様のご尽力に御礼申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いし、結びいたします。誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト推進リーダー 細萱 桂太（法政経学部・2年）

参考資料)

「1、京葉銀行による学生委員会の活動支援(1)国内外への学生派遣」における派遣学生の報告書

① International Green Awards 2017-2018 授賞式

● 上田幸秋（法政経学部・3年）

1. 参加した目的

私は今回当委員会の委員長として Green Gown Award 授賞式に出席する目的で参加をしました。

2. 得られたもの

私は、今回参加をしてまず、日本国内だけでなく世界が環境についてどのように考え、行動していくべき良いと考えているのか様々なプレゼンを通して学ぶことができた。このような経験は実際に海外に行かないと学ぶことができないものだと感じているので、とても貴重な経験を積むことができたと感じている。また、プレゼンやワークショップでの技術や進め方についても実際に参加することにより学ぶことができた。日本とは少し違う姿勢で取り組む場面もあり勉強になった。更に、授賞式を通じて千葉大学が学生委員会を中心に環境マネジメントシステムを運用してきた15年間の活動というものが高い評価を受け、世界にも認められる活動をしているのだなど強く感じることができた。

3. 所感

今回の授賞式を通して私は、上記2.でも書いたが世界にも認められる活動をしていることを感じた。このことを通して、15年間培ってきた活動は意味あるものであった と思うと同時に、今後さらに活動を発展させていく必要があると感じた。大学生とい うこともあり、メンバーの入れ替わりは激しいがその分後輩に引き継ぐことはしっかりと引き継ぎ、新たなアイデアなども取り入れ活動がさらに充実したものになればと思っている。私は、あと半年しか委員会に所属することはできないが今回経験したことをしっかりと共有し、少しでも活動がよりよいものになるように努力していきたいと感じている。

最後に、今回、京葉銀行様のご支援があってこそこのような貴重な機会に参加することができました。厚く御礼申し上げます。

● 岡桃菜（国際教養学部・3年）

1. 参加した目的

私は、「Green Gown Awards」にはエントリーシートの作成から携わってきました。更に、受賞後の Case Study にも微力ながら、お手伝いさせていただきました。エントリーシートや Case Study に携わったことによって、改めて学生委員会の活動をより多くの人に知ってもらいたいと思うようになり、「Green Gown Awards」の授賞式に参加しました。

2. 得られたもの

2日目に開催された「The Cross-Road day」では各国における環境への取り組みを知ることができただけでなく、ワークショップのディスカッションを通じて更に深い考え方や思いを聞くことができました。生まれた国や環境が異なっていても、環境に対する意識や熱意は変わらないという事実を知ることができ、価値のある経験をさせていただきました。また、ディスカッション内で自分の所属する団体や取り組みを紹介する機会があり、当委員会の紹介をしたところ、「日本では学生達が主体的に大学の環境負荷削減を行っていて、素晴らしい」「学生目線の取り組みを今後も続けてほしい」と褒めていただきました。国外でこのような貴重な意見を聞くことができたことは、今後の活動を続けていく上でモチベーションの向上につながりました。

授賞式では、学生委員会の15年間にもわたる取り組みが世界に認められたことが実感でき、今後も継続して活動を継続していきたいと感じまし

た。

3. 所感

今回、「International Green Gown Awards」の「Student Engagement」部門という名誉ある賞を受賞したことは、委員会の取り組みを世界に発信する機会となっただけでなく、15年間の活動の成果が世界に認められたことを示しているように感じられました。また、千葉大学の大きな特徴でもある、学生主体の環境活動を教育の一環として実践する方式を、海外の教育機関で導入しても

らうためにも、今後も千葉大学の環境への取り組みを国内外で積極的に発信していければと感じています。また、今回の貴重な経験を後輩にも共有し、今後も引き続き、委員会での活動に励んでいきたいと思います。

今回の「International Green Gown Awards」授賞式には、京葉銀行様の暖かいご支援を賜り、参加することができました。心より感謝申し上げます。

② 2018 EAUC 年次大会

● 浅倉裕登（法政経学部・2年）

私たちは6月20日、EAUC（大学環境協会）の年次大会へ参加してきました。会場となったイギリスのキール大学は、自然豊かな一方、19世紀の歴史を感じられる建造物もありました。そこで私たちは委員会のプレゼンをするという役割以外に、ワークショップへの参加、ハブセッションでの交流という時間がありました。

まず、ワークショップについてです。私は2つのワークショップへ参加しました。1つ目はイギリスのブリティッシュ・ハート・ファウンデーションという慈善団体の活動内容を聞きました。この団体は、狭心症や心筋梗塞などの心血管疾患（CVD）を患った方々を救う活動をしています。私は、支援金の集金方法に関して非常に関心を持ちました。主に、大学生を対象に、必要ななくなった物品を回収します。次にその物品を、イギリス国内で提携している740もの店へ売却して資金を収集します。最後にこの資金を研究費用へ投資して、援助をします。この活動は日本のフリーマーケットのようなものですが、ボランティア精神を育んで、人々を救う活動は先進的で、ユニークなものだと思いました。

2つ目はイギリスのイースト・アングリア大学の研究所の活動を聞き、ワークショップへ参加をし

ました。この大学は、世界トップレベルの研究の質を誇っています。中でもその研究所では、研究課程の様々なものに、環境面の配慮や効率性を鑑みているとのことでした。具体的には、研究所のスタッフの質、大学の教員の質、学生の質、研究室の持続可能性、設備といった観点です。ワークショップでは、過去の研究の報告書を例にして、関連のありそうな上記の点を参加者で話し合いました。実際、この研究所は商品の開発も実践していて、周囲の環境を整えることの重要性を学びました。

次に、ハブセッションについてです。これは、ワークショップや講演会の間に約1時間、参加者と打ち解ける時間です。私たちは企業や慈善団体のブースを訪れました。大学生向けの環境ゲームを授業で導入している団体や、竹を用いてコーヒーカップへ再利用する団体がありました。その他にも、環境へ配慮して開発されたタンブラーを頂いたり、私たちが作ったオリジナルうちわを配布したりして、形に残る交流をすることができました。

最後に、私たちの委員会のプレゼンテーションについてです。長い時間をかけて委員会の特徴についてのスライドを準備してきました。なぜ15年も委員会活動が続いているのか、どうして学生

は委員会の活動へ参加するのか、という2点を紹介しました。発表を聞いてくださった参加者の方からは、とても感動したといつてくださいり、自分たちの委員会の活動に誇りを持つことができました。

今回の派遣を通して、私たちの委員会の活動を改めて認識することができました。その上で、他団体の活動より学んだ、新しい取り組みを導入しようと思いました。今後は学内で紙ストローの導入を検討しようと考えています。また、これからもより良い委員会作りへ貢献をしていきたいと思います。



● 八代慈瑛（法政経学部・2年）

1. 参加した目的

第一に、英国で行われる会議で英語を使用しプレゼンテーションを行うという非常に貴重な経験を積むことのできる機会であることに魅力を感じました。岩手での環境マネジメント全国学生大会では日本語で学生委員会の活動をプレゼンテーションさせて頂き、また京都のACCSでは英語で司会進行をさせて頂きましたが、その二つで培った経験を基に海外の会議に参加しプレゼンテーションを行うことで更なる自身のスキルアップに繋がると感じました。第二に、海外の大学における環境教育担当者やISO運用担当者、環境問題に取り組む大学生と交流することで普段とは異なったインスピレーションを得、それを学生委員会の企画の発展改良に生かせると考えたことです。

2. 参加したアクティビティ

前述のとおり倉阪教授のご指導を賜りながら英語でEAUCアジアセッション内のプレゼンテーションを行わせていただきました。

また、二つの参加型ワークショップに参加し、それぞれ学生寮のエネルギー利用料削減と企業・大学におけるISOに関するリーダーシップというテーマについて参加者と議論・意見交換を行いました。さらに、出展されている企業・環境関連団体ベースを見学・情報収集を行い、委員会活動に有用な知見を得ることができました。

3. 得られたもの

英国で実施される会議に参加し、英語でプレゼンテーションを行うという大役で緊張はしましたが同僚の浅倉くん及び倉阪教授のサポートのおかげで無事に終えることができ、とても貴重な経験を積むことができました。また、英国の学生・教員の方々と親しくなり意見を交換する中で様々な知見を得ました。その例は、竹の纖維で作られたカップなど日本では見られない先進的テクノロジーを活用したものから、現地の高校生の団体の展示や英国の複数の大学の学生が共同で運営している環境保護団体など学生委員会にも共通した活動に至るまで多岐にわたります。会議への参加を通じて考えたこととして、英國文化圏では課題解決にcompetition、つまり競争という概念を多用していることを強く感じました。日本では競争という概念よりインセンティブや調和といったコンセプトが重視されているように感じますが、そのような日本のコンセプトに基づいた学生委員会の企画の中に競争概念をあたかもスパイスのように加えてみるとまた面白くなるかなと考えました。

何より今回の派遣の目的である学生委員会の活動の発信が成功し多くの方に我々のアクションを知って頂けたことが最大の成果であると感じます。

4. 反省点と改善点

プレゼンテーションは問題なく実施でき大きな反響を得られましたが、ワークショップ参加や質疑

応答の際に自らの英語力の欠如を痛感しました。更なる英会話力の向上を通じてもっと学生委員会の活動を外部に広めていきたいと思います。

5. 所感

スキルアップができ、よい経験が得られました。多くのクリエイティブなアイデアに触れることができ

き、なによりイアン・パットン氏をはじめ様々な方と交流させて頂き人脈を広げることができたので今後も同様の活動に参加し更に積極的なコミュニケーション及び発信を図っていきたいと感じました。

③ 第12回環境マネジメント全国学生大会

● 上田幸秋（法政経学部・3年）

1. 目的

私は、昨年度も参加し他大学の活動について多くのことを学ぶことができた。そのため、今年も学んだことを委員会へフィードバックできればと思い参加した。

2. 参加したアクティビティ

30～40代の大人に対する質の高い環境教育を実施するには

3. 得られたもの

まず、アクティビティにて得られたことは、ワークショップにおいてそれぞれの役割を全うすることの大切さである。ワークショップをするにあたり役割ごとの活動を行わないと上手に話がまとまらないことを学んだ。これを機に今後のそうした機会で活かしていきたいと思う。次に、各大学の活動紹介にて学んだことは、大学生発案の活動が非常に多いという点である。こうした活動の中に当委員会にて学べる点は非常に多いと感じた。

4. 反省点と改善点

今回は「SDGs」がテーマということもあり、SDGsについて各個人がもう少し勉強しておくべきであったということが反省点である。委員会内の学生においてもSDGsの知識を持っている者は多くないため、今後勉強会をするなどの対応がでければと思っている。

5. 感想

私は、最上級生ということもあり、後輩に向けてアドバイスができればと思い参加した側面もあった。こうした点から、1年生においては委員会

に所属してから半年しか経っていないがプレゼンのスキルを用い発表ができていたと感じた。今後、回数を重ね発表する緊張も解けてくると更に良い発表ができるのではないかと思う。2年生においては1年生をまとめる立場としてしっかりと活動ができていたと感じた。来年度はさらに後輩をまとめていってもらえればと思う。

次に私自身が参加し感じたことは、同じ目的で活動している他大学の学生と交流することは非常に大切かつ貴重な機会であると感じた。当委員会では他大学の学生と交流する機会が多くないため、非常に新鮮な機会であったと思う。この大会での繋がりを大切にし、今後行われるエコプロなどで活かせていくべきではないかと思う。また、他大学とのコラボ企画なども行うことができれば、さらに委員会の活動が充実したものになると感じた。

最後に、今大会において協力して下さった京葉銀行様に御礼申し上げます。

● 丸山達也（工学部・2年）

1. 目的

いろんな大学が集まる全国学生大会に参加することを通して、他大学の学生との交流、意見を交換することにより自分自身のスキルアップ、そして自分の所属する委員会へ還元していくことを目的とする。

2. 参加したアクティビティ

1日目・・・アイスブレイク、活動報告、懇親会
2日目・・・キャンパスツアー、基調講演、分科

会

※講演内容（長野県副知事 中島氏「SDGsに関する長野県の取り組み」、NPO法人上田市民エネルギー理事長 藤川氏「エネルギー革命、すべての人がプレイヤーに」）

3. 得られたもの

他大学の活動報告の中で自分たちの委員会にはない企画などがたくさんあり、今後活動していく中で参考になる部分が多くかった。また、今回琉球大学さんといった遠いところから来てくださっている大学が多く、千葉にはない地元ならではの魅力を知ることができたり、さらに地域に根差した活動が行われているという点でより一層自分の住む町、通う大学の魅力を知っていこうと思うと共に自分たちにできる形で地域貢献をしていこうと感じた。

4. 反省点と改善点

他大学との交流の中で、現在している自分たちのしている活動についての質問がきた時に昨年度よりもしっかりと返せる場面が増えたのが良かったが、その活動自体が生まれた経緯や過去の活動という面で詰まってしまうところが多かった。先輩たちが引退する前にいろんなことを学び吸収し、たまには過去の資料も振り返りながらさらに一步先の自分を目指す向上心を付けていきたいと思う。

5. 感想

昨年度に引き続き全国学生大会に参加させてもらい、上級生として、そして統括として一年生をサポートしていく立場になり、一年生の活動報告のスライドや発表原稿の作成の手伝い、昨年やらなかった勉強会や名刺交換のレクチャーを行った。その結果、一年生が大会の中で堂々と発表してくれたり、自分たちの委員会の魅力を伝えてくれたりと今回の大会を楽しんでくれたのでサポートする側としては嬉しい限りであった。また、個人としても当日までの準備計画、当日の他大学との積極的な交流といったなかなかできない経験が

できたので良かったと思う。また、自分たちの委員会は今回の大会を通して改めていろんなことをさせて頂いていると実感した。今後の活動の中で中心になって進めていく場面が多くなると思うが、失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジしていきたいと思う。



● 渡邊道哉（理学部・2年）

1. 目的

- ・他大学との学生と交流を図る。
- ・他大学の活動を知ることで今後の活動の参考にする。

2. 参加したアクティビティ

アイスブレイク・分科会・懇親会・活動紹介

3. 得られたもの

他大学の学生との人脈、千葉大学でまだ行っていない活動

参考になった活動・・・子供たちへの環境啓発で、環境×運動会（実際に体を動かして環境について学ぶもの）、環境×脱出ゲーム。また空き瓶を使ったハーバリウム作り

4. 反省点、改善点

- 1) 反省点・・・今大会では大学生間で仲良くなるのを目的としているところが多く、活動についてもっと深堀できるところができなかった。

改善点・・・懇親会だけでなく暇を持て余しているときなど自分から話しかけられるようにしたほうがいい。また、もう少し活動をより共有できるような企画を考えてもら

- うようにする。
- 2) 反省点・・・大阪大学を見ていて改めて思ったのが、うちの大学の学生はボランティア感覚の人が多い感じがした。
- 3) 反省点・・・活動紹介で企業との取り組みが多くされていたが、取り組んでいるだけで最終的にどのような効果があったのかが明示できた方がより企業と共同でやる意味が見いだせ、また活動をただやっているだけという印象がでないのではないかと思った。改善点・・・次回からやったことと実際に効果がどれくらいでたのかを少なくとも口頭でもいれるようとする。

5. 感想

日程がかなり込み合っていたため疲れもあったが、各大学の特徴的な活動が沢山聞けたことには満足のいくものだった。特に大阪大学さんの発案するものはユニークでありながら再現が簡単なことで千葉大学の方でも取り組むべきだと思った。例えば環境問題×運動会など、魚釣りや分別ゲーム、紙芝居などよりもよっぽど効果がありそうだと思った。

活動紹介の時にしばしば思ったことがあり、ほかの大学では組織として様々な活動を展開しているのに対して、千葉大学だけは組織的なところはもちろんあるが参加任意の活動が主に紹介されていて、今後の ISO 学生委員会の方向性がいまいちつかめないところが目立ったと思う。企業との取り組みは確かに他大学からも一目置かれてはいたが、班活動や NPO 活動はこれから衰退していくのか、それとも人数確保に齟齬している中で活動を展開していくのか、改めて自分たちの活動というものを考えさせられる全国大会でもあった。

● 稲村友里（園芸学部・1年）

1. 目的

全国大会に参加することを通して他大学の活動について知り、また情報交換を行うことで、他大学

とのつながりを強固にしつつ、当委員会の活動のさらなる活性化を図る。

2. 参加したアクティビティ

アイスブレイク・活動報告・懇親会・基調講演(中島恵理氏、藤川まゆみ氏)・キャンパスツアー・分科会(グループワーク・発表)

3. 得られたもの

Chiba Winter Fes とれじぶー基金、表彰について発表した。これらのことについて詳しく知らなかっただため、大会準備を通して ISO の活動について新しい知識を得た。また、分科会では各大学の地域に特有の発想を聞くことが出来た。

自・他大学の活動について知るだけでなく、他大学の 1 年生から 4 年生までの知り合いを作ることも出来た。

4. 反省点と改善点

事前の学習が足りなかった。

千葉大学の強みである企業とのコラボレーションがどのように始まったかについて聞かれることが多かったが、学習不足で答えることが出来なかつた。また、他大学の活動について調べていかなかつたため、深い理解を得るための質問をすることが出来なかつた。

5. 感想

意識の高い他大学の学生の貪欲に吸収しようという姿勢を目の当たりにした。受け身ではなく自分で考えて活動しよう、と気が引き締まつた。来年の全国大会では成長した姿を見てもらえるよう、1 年間積極的に学び、活動していきたい。

● 河村 夏海（教育学部・1年）

1. 目的

他大学の活動報告を聞いたり、他大学の学生と意見交換をしたりすることで、他大学の学生団体が環境に対してどのような活動をしているかを知り、当委員会の今後の活動へ生かす。また、当委員会の活動を他大学へ伝える。

2. 参加したアクティビティ

アイスブレイク、活動報告、懇親会、基調講演(中島恵理氏・藤川まゆみ氏)、キャンパスツアーや分科会(グループワーク・発表)

3. 得られたもの

自分が担当した当委員会の活動について、さらに深く知ることができ、さらに当委員会の様々な活動に興味を持てた。他大学の個性ある活動内容に驚くとともに、当委員会でも新たな活動として実現可能なものを参考にして当委員会に意見を持ち帰ることができた。他大学の学生と交流し、地域ごとの活動や意見の差に触れ合うことで、自分自身の視野が広がった。

4. 反省点と改善点

発表の準備をして、練習を重ね、本番では聴衆の目を見て発表することができたが、大人数の前で緊張してしまい、完璧な発表とはならなかった。当委員会の代表として参加しているという自覚を持ち、これから行動へ生かす。更に当委員会の活動に参加し、当委員会について十分な知識を得ることで緊張しても問題ないようにする。

5. 感想

普段は意見交換をすることのない他大学の学生と交流し、自分とは違う環境にいるからこそ意見や生活の違い、他大学団体の個性あふれる企画に触れることで、自分自身の視野が広がった。来年、また全国大会に参加するならば、先輩として、全国大会経験者としてふさわしい行動ができるように、日ごろから当委員会の活動に積極的に参加し、後輩や同学年のサポートに努めたい。



● 水谷匠吾（園芸学部・1年）

1. 目的

他大学がどんな活動をしているかを知り、今後の千葉大学の活動に還元できるようにほかの生徒と交流を図る。

SDGs の内容を他大学性と共に理解し、2030 年の目標に向けて学生視点の考え方で、解決策を探る。

長野県で、環境活動を行っている有識者から話を聞き、地域における活動の理解を深める。

2. 参加したアクティビティ

各大学の活動報告

他大学との懇談会

長野県が進めている環境活動（副知事による）

SDGs に向けたワークショップ

3. 得られたもの

琉球大学、公立鳥取環境大学、大阪大学、中部大学、信州大学、岩手大学、千葉大学といった国立大学が出席し、その中で環境に取り組む委員会、サークルの人から話を聞くことができた。それぞれの団体には特徴があったが、学生主体で動いていることは変わらなかった。少ない人数でどうやって活動していくかがそれぞれの大学の大きな問題となっていたが、継続した活動を増やすのがキーポイントであった。千葉大学でも少ない人数でやることが多いので、大変参考になった。人数が少ない分、風通しがよく、情報の伝達も正確である。千葉大学では人数が多く、取り組む活動、情報も多い。全員が多く情報を持っているとは到底思えない。情報の伝達の仕方が LINE だけでは伝わりにくいと思う。そこを解決することが必要だと思った。長野県の副知事が進めていることは大きな自然エネルギー増加の目標から小さな子供たちへの支援まで広い範囲で取り組んでいる様子が見えた。二人目の活動紹介人のように、知識はなくて、環境活動をしたいと思う人にも、目が行き届くような副知事であった。千葉大学でも一人の小さな意見をできるだけ多く取り入れることが

できればよいと思った。そのためには企画委員会での発表をしやすくし、さらに大きなイベントにすることが必要だと思った。

4. 反省点

全国大会の準備前までは SDGs のことをほとんど知らず、準備不足な面もあった。長野県、信州大学をはじめほとんどの大学がそれを目標に活動しており、ISO の運用、発展を目指す千葉大学 ISO 委員会との違いが見えた。大会 1 日目、2 日目を通して SDGs についてよく知ることができた。

5. 感想

大会の目標を達成することができてよかったです

う。数少ない他大学との交流はとても貴重な経験になった。ぜひ来年も参加させていただきたいと思った。



④ CAS-Net JAPAN 2018 年次大会

● 細萱桂太（法政経学部・2年）

1. 講演とキャンパスツアーの感想

岩手県は7年前の東日本大震災で甚大な被害を受けた地域を有しており、震災以前の地域のコミュニティが消滅し、仮設住宅や移転先の高台などでコミュニティの構築が行われた。新規の居住地域では必ずしも自然発的にコミュニティが生まれるわけではなく、近隣の住民との間では疎遠が続くことも少なくない。そこで外部からのコミュニティ構築の支援として大学が地域に入り、近隣住民との関係構築の促進が行われた。はじめ、この活動について聞いたときはローカルイノベーションの地域連携活動に似ているように思ったが、話を聞くにつれてより「人」との距離が密接で、ソーシャルキャピタルの醸成に深く関与していることが分かった。

キャンパスツアーでは岩手大学の歴史や研究について学ぶことができた。大学の歴史や研究内容を伝えるための施設が整えられていたことが印象的であった。その他、学内を全面禁煙化している点や割り箸を日常的に回収してリサイクルしている点、混雑する時間帯には自転車を押して通行することを呼びかけている点で千葉大学の取り組み

よりも優れていると感じた。

2. 自分の発表の概要と感想

千葉大学環境 ISO 学生委員会の発表は「千葉大学方式の環境マネジメントシステム」「環境 ISO 学生委員会の学内活動」「環境 ISO 学生委員会の学外活動」「Chiba Winter Fes～千葉からエコを広げよう～」の4部構成で行い、第1部では学生委員会の活動が単位化されていることや活動による成果を、第2部では内部監査やレジ袋有料化などの取り組みを、第3部では環境教育や京葉銀行との協同 eco プロジェクトの活動を、第4部では Chiba Winter Fes での様々な取り組みを紹介した。

当日の発表は時間の都合上、完全には伝えきれない部分があり、やや心残りはあるものの、堂々と密度の濃い内容を発表することができたと感じた。事前の準備段階においても幾度も修正を加え、よりよい発表になるように議論を重ねることができたことは、学生委員会の活動を包括的に理解できた点で非常に意義があったと思う。

3. 他大学の事例発表・表彰

私が他大学の中で最も感銘を受けた活動が、特別賞を受賞した立命館大学の Sustainable Week

実行委員会の他の学生団体と協力した SDGs の促進活動であった。多くの大学が専ら環境の側面からサステイナブルキャンパスへの取り組みを発表する中で、環境だけでなくジェンダーなど社会的なジャンルにおいても積極的な活動を行っている点が先進的だと感じた。立命館大学やびわこ・くさつキャンパスのある滋賀県も SDGs に力を入れており、知事と副学長によるシンポジウムを開催するなど学外に向けた活動も精力的で素晴らしいと感じた。構成人数 20 名余りと決して多くはない人数で大規模な活動をいくつも実施しており、メンバーの意欲の高さとさらなる成長への期待に溢れていると感じた。

4. 全体の感想

今まで学生委員会の活動の一環として、外部でスライドを用いながら活動紹介する機会がなかったため、今回の発表が初めての機会となった。自ら学生会の活動をまとめていく過程で、千葉大学の学生委員会を含む環境マネジメントシステムの特異性や学生の主体性の高さを改めて認識することができた。年次大会に参加して他大学の事例発表を聞き、千葉大学にはない進んだ取り組みを学び、新たな視点を得ることもできた。

今後、他大学との交流を深め、知見を共有することでよりよいサステイナブルキャンパスへの取り組みができるのではないかと感じた。また、環境に縛られずより広い視点・枠組みからサステイナブルキャンパスを捉え、多様な取り組みを進めることができが将来的に必要になるのではないかと考えた。

● 青木瞳（教育学部・1年）

1. 講演とキャンパスツアーの感想

全体シンポジウムの初めに、岩手大学の廣田純一教授による「東日本大震災からの復興と教訓」と題した講演が行われた。震災から 7 年半を経て、ハード面での復興事業が終盤を迎えて、地域コミュニティやまちの賑わいといったソフト面

での課題に直面している現状を受けて、復興支援、震災を風化させてはいけない、この教訓を次の世代へ確実に伝承していく義務があると学んだ。

続いてのキャンパスツアーでは、キャンパス内の紅葉を感じながらミュージアム本館と農業教育資料館を回った。展示物や建物自体丁寧に維持管理されている事が伝わってきて、有意義な時間を過ごすことが出来た。

2. 自分の発表の概要と感想

千葉大学環境 ISO 学生委員会としては、「キャンパスのサステイナビリティに配慮した学生活動・地域連携 学生が地域を変える新たな挑戦」という題で、千葉大学方式の環境マネジメントシステム、当団体の学内・学外活動（主に京葉銀行プロジェクト）、Chiba Winter Fes に関する発表を行った。特に京葉銀行プロジェクトは、昨年から継続してきた活動と今年度新しく始めた活動について紹介、また昨年度初めて開催した Chiba Winter Fes を大きな柱とし、「新たな挑戦」を意識した内容構成になったと思う。練習通り発表進める事は出来たが、反省点として発表時間がギリギリとなってしまった為、内容の取捨選択やパワーポイントの構成に関して、今回の経験を活かして改善していかなければいけないと勉強になった。

3. 他大学の事例発表・表彰

特に刺激を受けたのが、今回のサステイナブルキャンパス賞 2018 を受賞した立命館大学の Sustainable Week 実行委員会の活動に関する発表である。当団体の活動の課題として挙げられる「他学生からの活動認知の低さ」という点をクリアし、大学内 28 の学生団体と共に SDGs の体験型イベントを成功させ、また約 20 人という所属人数を活かした運営を行っている点で今後の参考になった。更に、「誰一人取り残さない SDGs カレー」の活動は成り立ちから斬新な発想で非常に勉強になった。

4. 全体の感想

発表準備の段階からプログラム全てに至るまで、とても充実していて多くの学びを得ることが出来た。学生の取り組みだけでなく、教職員の方々の視点から見た大学運営や省エネ事業等についても幅広く知るきっかけとなり、講評の中でも指摘されていたが、サステイナブルの概念の幅の広がりを感じた。また自分の発表に関しては、外部に出て発表をする事が初めてで、至らなさを感じる場面があったが、先輩や他大学の発表、質疑応答の姿勢を受けて、これから更に知識や経験を身につけて成長していくよう頑張りたいと改めて感じた。

貴重な経験をさせて頂き、岩手大学の運営担当の方々をはじめとして、CAS-Net JAPANに参加するにあたり、協力して下さった皆様には感謝申し上げます。この体験を今後の糧としていきたいと思います。



● 照井友里香（教育学部・1年）

1. キャンパスツアーグループの感想

大学内を見学しまず思ったことは、とても緑が多いということだ。私が行った時は紅葉シーズンを迎えていて、どの木も綺麗に色づいていたため、とても癒された。またキャンパス内には岩手の偉人のモニュメントや作品が多く飾られており、地域に密着した大学だと感じた。岩手大学ミュージアムや農業教育資料館また、今回は行けなかった

が自然観察園や動物の病気標本室、植物園など、今までの歴史や研究を知り、寄り添うことのできる博物館が多くあり、まわっていてとても楽しかった。千葉大学にもこのような場所があればいいのにと思った。また、大学で作ったブルーベリーで、地域の人がブルーベリー狩りができる企画が毎年あるらしく、そこからも岩手大学の地域との交流の盛んさがみられた。

2. 自分の発表の概要と感想

私たちは、「キャンパスのサステイナビリティに配慮した環境活動・地域連携」という題で、千葉大学の環境マネジメントシステム、環境ISO学生委員会の学内活動・学外活動、ウインターフェスの4つの項目について発表した。感想として、なによりも発表時間が制限時間をオーバーしてしまい、用意してきたもの全てを読むことができなくてとても悔しかった。様々なアクシデントが起こることも想定して、余裕のある内容づくりが大切なのだと身にしみて感じた。

3. 他大学の事例発表

私が今回 Cas-Net Japan2018 に参加して感銘を受けたのは、立命館大学と岩手大学である。特に立命館大学は、SDGs の 17 のゴール達成に向けて、学生団体が自分たち独自で考えた様々なオリジナル企画を行っているという内容であり、まさに優勝にふさわしい発表であった。近年日本でも注目されるようになった SDGs を学生団体とも協力しながら、留学生や地域の人々に発信しているということで、私たちの委員会は学内の特に学生団体や留学生とはあまり協同していないように感じるため、とてもいいと思ったし、今後に生かしていきたいと思った。

つぎに岩手大学の発表であったが、当大学は、活動内容はもちろんあるが、なによりも発表が素晴らしかった。表情は明るく、声はハキハキして聞き取りやすく、原稿はあまり見ずに聴く人の目を見て呼びかけ、パワーポイントは写真を多用しやすくて、そして発表の中で大切なキーワードを

繰り返すことでの発表を伝えたかったのは、はつきりわかる発表であった。どの学生も生き生きとしており、自分たちの委員会・活動に誇りと自信があるのが伝わってきた。

4. 全体の感想

私は ISO 学生委員会について発表するのは今回が初めてだったので、緊張したしわからぬことも多かった。しかし、先輩方の助けもありながら、自分たちで発表資料を作成していくことで、自分たちの活動について理解を深めることができた。他の大学の様々な取り組みを知ったのもこれが初めてだったため、とても貴重な経験だったと思う。個人的な反省であるが、もっと発表が上手になれば…と思う。というのも、すごいと思った発表は、言葉の言い回しやパワーポイントの使

い方が上手である。同じ活動内容でも、どういう発表をするかで聞く人を惹きつけられるかは変わるものだと思った。私だけでなく、委員会全体でそんな発表ができればいいと思う。



⑤ ACCS 2018 年次大会

● 小出ひなた（園芸学部・2年）

1. 参加した目的

2017 年度は、千葉大学環境 ISO 学生委員会は国内のみならず国外での受賞の機会も多く、多くの学生が国際会議や表彰式に出席していました。そんな先輩方や同期の活躍を見て、自分も国際会議に出席してみたいと思い、今回参加させていただきました。また、学生委員会の活動を世界に発信したいという思いもありました。

2. 参加したアクティビティ

一日目は基調講演や各国の代表者のディスカッションを公聴しました。レセプションにおいては、各国の学生と卓を囲み交流を深めました。二日目に行われた学生プレゼンテーションでは、千葉大学での環境活動の事例を発表しました。各国の学生の発表も公聴しました。

3. 得られたもの

学生のプレゼンテーションを聞き、SDGs という言葉が多く出てきました。SDGs が世界の共通言語となっており、千葉大学環境 ISO 学生委員会の

活動も SDGs を視野に入れるべきだと感じました。学生のプレゼンテーションはどれも素晴らしい、参考になるものでした。その中で 3 つ特に印象に残った大学の発表があるので下記に記します。
岩手大学：緑のカーテン・新規企画のハーバリウムプロジェクトの発表をメインに行なっていました。力を入れている事柄に関するこをメインに発表することで、まとまりがありました。緑のカーテンはとても大きくて驚きました。千葉大の緑のカーテンも今後しっかり管理していくべきだと思いました。

立命館大学：非常に興味深い活動をしていました。SDGs の項目ごとに沿った企画を運営している SUSTAINABLE WEEK 実行委員会の活動紹介を聞きました。

マヒドン大学：ゴミ分別に関する発表でした。独自で作成した環境啓発動画がとても面白かったです。また、ゴミ分別のアプリを作成し実際にプレゼン時に実演していました。

4. 反省点と改善点

①事前準備について

・今まで海外派遣に使用していたパワポを加筆修正し使用したため、内容に新しさがなかった。
→SDGs に関する事にも触れる、構成を変える等の工夫が今後必要と感じる。内容が盛り沢山になってしまうのは学生委員会の活動が多岐に渡っていることも一つの要因である。それは他の大学にもない優れた点もあるが、プレゼンとなった場合にまとまりにくくなってしまう点を留意しておくべきである。

・役割分担があまりうまくできなかった

→一ヶ月前くらいから準備を始めたが、もう少し早く始めに開始し下級生をフォローできる体制を整えて役割を分担した方が良い。下級生の今後にもつながると感じる。

・個人的な反省点であるが、他の活動と並行して準備するのでバランスが難しかった。

→役割分担をする、早めに準備する

②当日

・英語で積極的に発言できなかった

→単純に英語が苦手なせいもあったが、これを機にもう一度勉強し国際会議の場においても英語で意見が言えるようにしたい。

5. 所感

貴重な経験をさせていただきました。この機会がなければパスポートも取らなかつたでしょうし、英語を再勉強しようと思わなかつたと思います。各国の話も大変参考になりました。学生委員会の代表としての海外での発表において「日常的なことが話せる英語力」と「学生委員会についての理解」のバランスが重要です。私は前者が欠けており、1年生であるので仕方ないので他同席者2名は後者がまだ不十分という状態臨みました。3人で不足分を補いながら協力して ACCS に参加できた点良かったと思います。中川・松橋には今後今回学んだことを活かして、今後の学生委員会の活動に積極的に参加していってもらえば大変嬉しく思います。私自身の活動への還元はもちろんのこと、今後は後輩の活躍の場を整えたり、サポートできるよう、より一層精進していきたいと思います。



● 中川あかり（法政経学部・1年）

1. 参加した目的

千葉大学だけでなく、世界の各大学の取り組みを知りたいと思ったのが一番のきっかけです。

また、各大学と交流することで I S O の活動にある現在の課題解決を図れたら良いとも思いました。

2. 参加したアクティビティ

ACCS の発表とレセプションです。

特別に時間をいただき、当学生委員会の取り組みを説明する簡単なプレゼンテーションを行いました。更に、セッション合間のランチタイムやレセプションでは各国の学生と親睦を深めることができました。

また、開会式で特別に来てくださった前国連議長の潘基文さんの演説では、環境配慮の話題だけでなく外国との友好関係までも言及されていて、新聞で日韓関係波高しと報じられた当日に拝聴したあの演説には、とても感慨深いものがありました。

3. 得られたもの

岩手大：最初の4か国語でのあいさつが印象的、場の雰囲気が和らぐので来年ぜひ取り入れたいです。

京都大：文字が黒々していて情報量が多くて、やや見にくかったですが基本的な省エネ要素を丁

寧に見直しており、グラフが本格的でした。

立命館大学：SDGsについての発表。焦点を絞っていたため分かりやすいし、全員が原稿を暗記していました。組織名は SUSTAINABLE WEEK 実行委員会で、少数精銳で活動しているようです。テーマを常に SDGs に置いており、一貫性を感じられました。

ただし、活動のマンネリ化という問題も抱えていました。話し合いましたが解決策は見えませんでした。

延世大学：取り組みが地域の人でなく学生を対象としているため、大学全体を巻き込んでいる感じがしました。ちなみに大会後、親切な彼らが学生に人気の街を案内してくれました。みんなでおいしく辛いトップギョを食べました。他文化を理解しようとする姿勢に溢れた、素敵な学生さんたちと友達になれてよかったです。

マヒドン大学：缶を集めるとポイントゲームのアプリが秀逸で、とても魅力的でした。

また、他大で独自に作成されたCMがユーモアたっぷりでメッセージ性も強く、とても良かったです。

4. 反省点と改善点

・練習不足

原稿を完全に暗記して臨むべきでした。自分に甘く練習していたことが、今回の賞状の授与なしという結果につながった一因だとも思います。

・パワーポイントの焦点を絞る。

今回のプレゼンテーションでは ISO の活動を鳥瞰的に紹介していましたが、特定のイベントに絞ったものにすると、さらに伝わりやすいのかなと思いました。また、これは ISO の活動全体に対し言えることですが、他サークルの学生が参加する機会が少ないのでしょうか。私は、審査員の目を意識した活動をすべきだとは全く思いません。ですが観客にはたくさんの企画や活動内容の包括的な紹介よりも、分かりやすく他者（ISO ではない人）へのメッ

セージ性が強いものの方が届きやすいと感じました。省エネイベントのように、学生をターゲットにしたイベントをもっと増やすのも良いかと思います。その方が、より説得力が増すのではないかでしょうか。

・最初のビデオは不要。

生の学生の発表を聞くのを目的とするプレゼンの場にはあまりふさわしくないのではないかでしょうか。いくら内容を端的に、わかりやすく説明しても無機物を通した説明の方が会場に響きますし、活力があると思います。他のどの大学もやっていませんでしたので、来年廃止してもよろしいかと存じます。

・たとえ結果につながらなくても、その場を楽しむ精神の欠如

受賞を逃したとき私は自分が思っていた以上に悔しがっていて、思わず会場を抜け出してしまいました。来年はこの悔しさを胸に、原稿準備をやりきったという思い出と最後まで見届ける気持ちを抱きつつ参加したいです。

5. 所感

今までぼんやりとしか考えていなかった「ISO とは何か」を改めて知る良い機会になりました。環境だけにテーマが絞られていても、いざ発表になると、アジアの学生による十人十色の企画、結果になることに感銘を受けました。そして他大学の方々との交流が非常に楽しかったので、来年もぜひぜひ参加したいと感じました。今回、覚えたての中国語が通じずさみしい思いをしたので、次の上海大会までにプラッシュアップしたいです。貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。

● 松橋寛太（園芸学部・1年）

1. 参加した目的

参加した大きな目的は学生が集まるこのような会議に参加し学外の学生たちと交流することで、新たな視点に気づくことができると考えたことで

す。加えて今回はアジア4ヶ国が一同に介する場であり、このような機会は滅多になく貴重であり、参加者の声を実際に聞き自らの今後の活動の糧とすることを目的として参加を決めました。

2. 参加したアクティビティ

12月1日のレセプションにおいて、PowerPointを用いて学生委員会の紹介をする15分程度のプレゼンテーションを行いました。また、休憩時間や夕食時には他大学の学生とも英語を交えて交流をし親睦を深めました。

3. 得られたもの

京都大学はエアーコンディショナーと同じ快適さでいかに消費電力を抑えるかについての研究発表を行っていました。普段の私たちの活動では環境に良いことが既知である事柄を活動にすることが主ですが、京都大学のように環境に対する基礎研究を行うことも大切であると気づかされました。また、マヒドン大学はユーモア溢れる環境啓発動画を上映し、観客の心を掴むことに成功していました。どうしても単調になりやすいので、観客が注目してくれるような仕掛けを入れることも必要であると感じました。

4. 反省点と改善点

反省点としては、普段からの当委員会の活動に関する基本的な理解が不十分であったため自分が担当した部分の英語の内容の特に大事なところであったり強調したい要点を掴みきれていたなかったことがあります。また、マイクやポインターの扱いに慣れていないく、本番で少し手間取ってしまいました。

5. 所感

今回、初めてこのような会議に参加させていただいて、全てが貴重な体験となりました。自身の英語力に関して不安を持っていましたが聞くことに関してはそれほど苦労しませんでした。しかし、台本ではなく懇親の場となるととっさに単語が出てこず、悔しい思いをしました。今回経験したことや、新たに気づいたことを委員会の活動に還元

していければと思います。

